

令和6年度

なごや生物多様性保全活動協議会 活動報告書



令和7年4月



なごや生物多様性保全活動協議会

目 次

はじめに	1
------	---

なごや生物多様性保全活動協議会 (なごビオ) について	3
--------------------------------	---

動物調査と保全対策部会	7
-------------	---

水辺の生きものの部会	10
------------	----

生物情報モニタリングデータベース部会	13
--------------------	----

里山林・社寺林部会	15
-----------	----

両生類部会	19
-------	----

昆虫類部会	24
-------	----

広報・PR事業	26
---------	----

なごや生物多様性サマースクール2024	28
---------------------	----

なごや生きもの一斉調査2024 ～アメリカザリガニとエビ・カニ類編～	30
---------------------------------------	----

池干し～水広下池（緑区）～	33
---------------	----

会員活動支援	35
--------	----

岸壁幼魚採集&チリメンモンスターを 探せ！ with 鈴木カリブ先生 （「あいちの海」グリーンマップ）	36
---	----

名古屋昆虫同好会主催・特別講演会 （名古屋昆虫同好会）	37
--------------------------------	----

地域活動支援	38
--------	----

細口池生きもの復活クラブ活動報告 2024	39
-----------------------	----

助成金事業	40
-------	----

みつばちと命のサイクルから学ぶ ～BeeHappy∞Project～ （地球ハグ倶楽部）	41
--	----

鳴子中央公園樹林地での 子育てファミリーとの里山づくり （鳴子きずなの会）	42
---	----

学校のビオトープ、緑地帯で行う 生物多様性に関する調査・体験・学習活動 （名古屋経済大学市邨高等学校 生物ゼミ）	43
--	----

東海中学・高等学校生物部活動報告	44
------------------	----

会員団体の活動紹介・報告

相生山緑地自然観察会	45
------------	----

「あいちの海」グリーンマップ	45
----------------	----

雨池ホタルの会	46
---------	----

大高緑地湿地の会	46
----------	----

尾張サンショウウオ研究会	47
--------------	----

雑木林研究会	47
--------	----

滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会	48
------------------	----

地球ハグ倶楽部	48
---------	----

中部蜘蛛懇談会	49
---------	----

東谷山湿地群保全の会	49
------------	----

中志段味の自然を次世代に伝える会	50
------------------	----

「なごや環境大学」実行委員会	50
----------------	----

公益財団法人 名古屋港緑地保全協会	51
-------------------	----

名古屋昆虫同好会	51
----------	----

名古屋産業大学現代ビジネス学部・大学院 環境マネジメント研究科 長谷川研究室	52
---	----

名古屋自然観察会	52
----------	----

名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち	53
---------------------	----

名古屋市立大学大学院理学研究科附属 生物多様性研究センター	53
----------------------------------	----

なごやの森づくりパートナーシップ連絡会	54
---------------------	----

NPO 法人 なごや東山の森づくりの会	54
---------------------	----

NPO 法人 日進野菜塾	55
--------------	----

日本ワシタカ研究センター	55
--------------	----

花水緑の会	56
-------	----

隼人池を美しくする会	56
------------	----

ビオトープ・ネットワーク中部	57
----------------	----

特定非営利活動法人 藤前干潟を守る会	57
--------------------	----

三河淡水生物ネットワーク	58
--------------	----

名東自然倶楽部	58
---------	----

もりづくり会議	59
---------	----

名城大学野生動物生態研究会	59
---------------	----

矢田・庄内川をきれいにする会	60
----------------	----

山崎川グリーンマップ	60
------------	----

1. 企業の生物多様性保全への参画

企業の生物多様性保全への参画が進んでいます。2024年10月に生物多様性条約第16回締約国会議（CBD COP16）がコロンビア共和国のサンティアゴ・デ・カリ（通称：カリ）で開催されました。このトピックとして、遺伝資源のデジタル配列情報（DSI）から得られる利益を配分する基金である「カリ基金」の設置が合意されました。DSIを製品やサービスに利用する企業が、利益または収益の一部を基金に支払うことを規定され、基金の50%は、直接または政府を通じて、先住民と地域コミュニティに配分されることになります。企業活動によって、生物多様性保全を推し進める仕組みとして、その成果が大いに期待されます。

また、2022年12月に閉幕したCBD COP15以降、「ネイチャーポジティブ（自然再興）」は様々な場面で見聞きする様になり、そのための数値目標である「30by30」（サーティ バイ サーティ：生物多様性条約締約国（194の国と地域）において、2030年までに陸と海のそれぞれ30%以上を保護区とする）とその達成に向けたOECM（Other Effective area-based Conservation Measures）、日本においては「自然共生サイト」は、生物多様性保全の施策としては、これまでにない程の盛り上がりを感じられます。自然共生サイトが、企業緑地や屋上緑化、社寺林等の民有地も含めて新たな保護区を認定する仕組みのため、特に企業による申請、認定が進んでいます。2023年4月以来、3回の申請期間を経ていますが、初回の2023年度前期に122サイト・約7.7万ha（35都道府県）を認定、面積の合計は国土の約0.2%相当にもなりました（東京23区を超える面積）。その後は認定件数に制限を設け、2023年度後期に62サイト・約0.8万ha、2024年度前期に69サイト・約0.5万haを認定し、現在のところ計253サイト・約9万haを認定しています。この多くが社有地であることが注目されます。ただし、日本の保護区は2021年時点で陸が20.5%、

海が13.3%のため、30%の目標値からすれば、決して多くない面積です。このため、環境省は2026年度までに500サイト以上の認定を目指しています。

名古屋市は、30by30アライアンスのメンバーであり「生物多様性なごや戦略実行計画2030」において、2030年までに5カ所以上の認定を目標として掲げています。2024年3月に「なごや東山の森」が市有地で初の認定を受けました。また、2025年後期に「八竜緑地・金城学院大学の里山」を申請し、認定の見込みです。

2. 自然共生サイトと保全活動

自然共生サイトの認定が、保全活動に対してメリットがあるか考えてみたいと思います。現在の所、経済的なインセンティブは検討されていないようですが、私が把握している限り、認定されることには4つほど良い面が考えられます。一つ目はやはり、保全活動の場所及びその活動が、生物多様性保全の場・活動として公にその重要性が認められる点です。特に市内の緑地においては、この位置づけが公になることは、緑地管理のあり方においてトピックとなる様に思います。二つ目は、自然共生サイトの認定を受けた土地の保全活動を、外部の組織が支援することに対しての証書（自然共生サイトに係る支援証明書）の発行が実施される予定であるため、地元の企業等からの支援を受けやすくなる可能性もあります。三つ目として、やや労力は掛かりますが、自然共生サイトの申請、認定を目指した一連の活動（既存資料の収集・整理、現地調査、モニタリング企画、書類作成等）を地域の関係主体の連携で進めることで、保全場所の価値の見直しが図られると共に、関係人口の増加も図れる様に思います（自然共生サイトの申請には、現地の生物多様性の価値を示す資料と今後の保全・モニタリングの活動計画が必要です）。保全・モニタリング活動において、地元の高校や様々な地域団体との連携を図る好機にも

なりうると考えます。実際に企業の例でも高校や保全団体との連携が少なくありません。つまり、自然共生サイトの認定を受けられることも重要ですが、申請を目指す活動にも意義があると考えます。四つ目として、2025年4月以降に自然共生サイトを法制化した新法・地域生物多様性増進法が施行されてからとなりますが、自然共生サイトのある自治体が、自然共生サイトの認定地の土地所有者などと生物多様性維持協定を結び、長期安定的な活動を推進する仕組みが設けられる予定であるため、自治体からの支援が充実する可能性があります。こうしたことから、名古屋市内の保全活動の維持発展にとっても、自然共生サイトの認定は有効であると考えられます。新制度の詳細は環境省のホームページに公開されていますので、ぜひご覧ください。

3. 名古屋市の生物多様性行政となごビオ

なごビオは2025年度で15年目を迎えます。なごビオの活動範囲はこれまでの間に、より多様な分類群へと活動の幅を広げ、より専門性の高い活動へと展開してきたことで、名古屋市の生物多様性行政や保全事業との連携は、より密接になってきていると感じられます。その成果とも言える近年の代表例を3つほど紹介させていただきます。

一つ目は、上記の自然共生サイトの申請の件で、なごや東山の森の自然共生サイトの申請には、なごビオの各部会が集めてきた分類群ごとのデータを提供すると共に、モニタリング活動の一つとして部会によるモニタリング活動が入っています。なごビオの活動が、名古屋市の自然共生サイトの認定に対して果たす役割は今後とも大きいことでしょう。二つ目は、名古屋市環境局が2025年2月17日に公開した「名古屋市内における生物多様性重要エリアマップ」です。本取り組みはネイチャーポジティブの実現に向け、開発事業者の生物多様性への配慮を促進するた

めに、市内の生物多様性保全上重要なエリアを可視化したマップです。希少種の生息、保全活動の状況、緑地や水辺の状況等の評価項目により、市域を250mメッシュごとに評価し、評価点の高いメッシュを赤色で表示しています。開発事業者は、市に問合せることで、さらに詳細な内容を知ることが出来ます。なごビオからは、このマップづくりのための基礎的な情報を提供しました。幸いなことに、本取組は、国土交通省による第5回グリーンインフラ大賞「優秀賞」を受賞しました。皆様もぜひご覧ください（末尾二次元コード）。三つ目は、次年度早々に発行される予定の「レッドデータブックなごや2025」への情報提供です。各部会には、レッドデータブックの執筆に関わる方が多く、部会活動やなごや生きもの一斉調査等で得られた情報はレッドデータブックに数多く反映されています。

この様に、なごビオの成果が名古屋市の生物多様性行政に活用されることで、この地域の生物多様性保全に効果的に貢献することができるようでしょう。今後もより実効性がある効率的な協働を図っていく所存です。これからも多くの皆様からのご支援、ご参加、そしてご指導を賜りたいと存じます。

名古屋市内における生物多様性重要エリアマップ



2024年3月に市が昨年度に公募していた
なごやネイチャーポジティブマークが決定しました。



なごや生物多様性保全活動協議会（なごビオ）について

協議会（なごビオ）の設立

名古屋市には東部丘陵地を中心に110箇所ものため池が現存しています。しかしながら、都市農業の衰退により、ため池の主な役割が「利水」から「治水」に変化しました。そのため、人とため池との関わりが希薄化したことや、外来種の侵入によって在来の生きものが減少したことで、ため池における生態系の劣化が進んでいると言われています。

COP10開催決定を契機に、平成20（2008）年度から3年間、「名古屋ため池生物多様性保全協議会」を設立し、地域住民・市民団体・行政が協働で、ため池の生物調査や保全活動を行ってきました。

平成23（2011）年度からは、ため池に限らず他の生態系まで対象範囲を広げるとともに、侵略的外来種の防除に力を入れるなど、活動内容を拡充するため、「名古屋ため池生物多様性保全協議会」の組織体制と人材を拡充し、「なごや生物多様性保全活動協議会（なごビオ）」（以下「なごビオ」という）を平成23年5月15日に設立しました。

なごビオの設立目的は、なごやに生息・生育する生物及びその環境を継続的に調査し、生物多様性の現状を把握するとともに、外来種防除などを通し、身近な自然の保全を実践することです。

構成

なごビオは令和7年（2025）年3月末現在、42の団体会員、29名の個人会員、名古屋市で構成しています。1年間の事業計画や事業報告については、総会にて議決します。

また、役員（会長・副会長3名・監事2名）と幹事（15名）を置き、幹事会にて運営に関わる事項について協議しています。

事業の実施にあたっては、活動分野ごとに部

会を設置し、部会ごとに調査内容・方法・日程・人員等の計画を作成し、実施しています。事務局は、各部会や実行委員会の実施する調査や会議、イベントについて、準備・連絡調整等の役割を担っています。

市民の方を対象に、協議会が実施する調査やイベントなどへ参加いただく仕組みとして、「なごや市民生きもの調査員」を募集しています。登録いただいた方には、イベントなどの募集情報を毎月案内しています。（令和7年3月25日現在・登録者数1,861名）

活動内容

なごビオは設立目的に基づき、市民・専門家・行政の協働で、生物多様性に関する調査・保全活動を実施しています。

活動を支える事務局と拠点「名古屋市環境局なごや生物多様性センター」が担っており、名古屋市の負担金により事業を実施しています。

なごビオが令和6（2024）年度に取り組んだ主な調査・保全活動は、アライグマ・ミシシippアカミミガメ・アメリカザリガニ・オオキンケイギクなどの外来種対策、市内の里山・緑地・ため池などにおける生物調査等を実施しました。

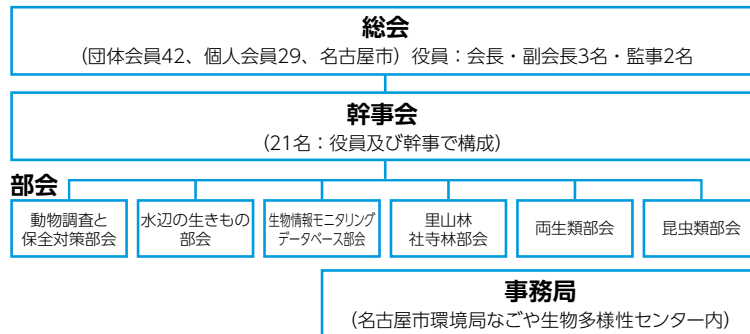
また、身近な自然や生きものに一層の関心をもっていただく機会として、7月に小中学生を対象とした「なごや生物多様性サマースクール2024」を、9月及び10月には「なごや生きもの一斉調査2024」として、アメリカザリガニとエビ・カニ類の調査を市民の皆さんとともに行いました。

調査・保全活動を通して得た結果については、収集・蓄積し今後に生かすため、生物情報モニタリングデータベースの構築を進めています。

また、なごビオの取り組みを発信する場として、毎年5月には活動報告会を開催しています。

令和6年度なごビオの組織・構成

なごや生物多様性保全活動協議会（なごビオ）



部会一覧

- 動物調査と保全対策部会
- 水辺の生きもの部会
- 生物情報モニタリングデータベース部会
- 里山林・社寺林部会
- 両生類部会
- 昆虫部会

幹事一覧

(令和7年3月末現在・敬称略)

氏 名	所 属 等	備 考
板倉 里奈	なごや環境大学実行委員会	監 事
伊藤 健太郎	名古屋昆虫同好会	
梅本 洋子	花水緑の会	副会長
大沼 淳一	個人会員（専門分野／水質）	
大矢 美紀	「あいちの海」グリーンマップ・山崎川グリーンマップ	
熊澤 慶伯	名古屋市立大学大学院 理学研究科 生物多様性研究センター 教授	
小菅 崇之	個人会員（専門分野／水生植物）	副会長
榊原 靖	個人会員（専門分野／水生植物）	
佐藤 裕美子	名古屋自然観察会・名古屋昆虫同好会	
高木 和彦	名東自然倶楽部	
滝川 正子	NPO 法人 なごや東山の森づくりの会	監 事
戸田 尚希	名古屋昆虫同好会（名城大学農学部昆虫学研究室 研究員）	
富田 啓介	個人会員（愛知教育大学教育学部 准教授）	
野中 賢輔	個人会員（専門分野／外来種対策）	
野呂 達哉	四日市大学環境情報学部野生動物保全学研究室 特任准教授・日本カメ自然誌研究会	
橋本 啓史	個人会員（名城大学農学部生物環境科学科 准教授）	副会長
長谷川 泰洋	名古屋産業大学現代ビジネス学部・大学院 環境マネジメント研究科長谷川泰洋研究室	会 長
藤谷 武史	尾張サンショウウオ研究会	
増田 理子	なごや生物多様性センター生物多様性推進参与（名古屋工業大学社会工学専攻 教授）	
矢部 隆	日本カメ自然誌研究会	
鶴原 聡	名古屋市環境局環境企画部担当課長（生物多様性の保全担当）	

なごや生物多様性保全活動協議会（なごビオ）について

● 会員一覧

● 団体会員

団 体 名
相生山緑地自然観察会
「あいちの海」グリーンマップ
愛知守山自然の会
雨池ホタルの会
荒池ふるさとクラブ
伊勢・三河湾流域ネットワーク
大高竹の会
大高緑地湿地の会
尾張サンショウウオ研究会
白玉星草と八丁トンボを守る島田湿地の会
雑木林研究会
滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会
地球ハグ倶楽部
中部蜘蛛懇談会
東谷山湿地群保全の会
中志段味の自然を次世代に伝える会
なごや環境大学実行委員会
公益財団法人 名古屋港緑地保全協会
名古屋昆虫同好会
名古屋産業大学現代ビジネス学部・大学院 環境マネジメント研究科長谷川研究室
名古屋自然観察会（愛知県自然観察指導員連絡協議会名古屋支部）
名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち
名古屋市立大学大学院 理学研究科 生物多様性研究センター
なごや森づくりパートナーシップ連絡会
NPO法人 なごや東山の森づくりの会
NPO法人 日進野菜塾
日本カメ自然誌研究会
日本野鳥の会愛知県支部
日本ワシタカ研究センター
花水緑の会
隼人池を美しくする会
ビオトープ・ネットワーク中部
特定非営利活動法人 藤前干潟を守る会
三河淡水生物ネットワーク
名東自然観察会
名東自然倶楽部
もりづくり会議
守山リス研究会
名城大学野生動物生態研究会
矢田・庄内川をきれいにする会
山崎川グリーンマップ
四日市大学環境情報学部 野生動物保全学研究室

（令和7年3月末現在・敬称略）

● 個人会員

氏 名
飯尾 俊介
伊東 英幸
今井 洸貴
太田 貴大
大塚 徹
大沼 淳一
加藤 航大
川瀬 基弘
國枝 奎吾
小菅 崇之
齊藤 毅
榊原 靖
櫻谷 保之
佐藤 裕美子
高木 順夫
高山 博好
土山 ふみ
寺本 匡寛
研谷 厚
富田 啓介
野中 賢輔
橋本 啓史
早川 凌平
伴 知幾
松沢 孝晋
宮田 裕貴
武藤 信一郎
守谷 茂樹
山岸 健三

● 名古屋市

なごや生物多様性保全活動協議会事務局を、なごや生物多様性センター内に置く。

● 総会の開催

総 会	日 付	審議事項
通常総会	5月12日	1 令和5年度事業報告について 2 令和5年度決算報告について 3 令和5年度会計監査報告について 4 令和6年度役員選出について 5 令和6年度事業計画（案）について 6 令和6年度収支予算（案）について

● 幹事会の開催

回	日 付	協議・報告事項
第1回	5月23日	1 部会事業報告 2 令和6年度パンフレット 3 なごビオの会議 4 会員活動支援
第2回	7月25日	1 部会事業報告 2 環境デーなごや中央行事 3 令和6年度パンフレット（案） 4 令和7年度一斉調査の対象種 5 新規会員
第3回	9月26日	1 部会事業報告 2 生物多様性センターまつり レイアウト案 3 協議会会員の退会手続き 4 ネイチャーポジティブパートナー
第4回	11月28日	1 部会事業報告 2 令和7年度予算等 3 令和7年度総会&活動報告会 4 執行残の使途 5 一斉調査2025（カエル）概要 6 規約改正（案） 退会規程部分 7 ネイチャーポジティブパートナー 取組事例&マッチング申請 8 会員活動支援
第5回	1月23日	1 部会事業報告 2 執行残の使途 3 令和7年度予算等 4 令和6年度活動報告会の講師 5 一斉調査2025（なごやのカエル）

はじめに

市内と周辺地域に生息する野生動物について、部会員と有志（学生、専門家、大学研究室、保全団体等）が協力して、種ごとの分布状況や生息環境を明らかにすることを目的としている。また、調査で採集、捕獲した生物や駆除等で捕獲した生物について、計測や解剖、標本化を実施している。それらの結果や標本については「なごや生物多様性センター」に収蔵・蓄積している。

さらに、これらの結果や資料を基に、外来種の防除や在来種の保護、保全を計画、実施している。

その他、活動内容や成果を伝える啓発、展示、環境学習、調査実習、大学生の卒業論文等にも協力している。

主な活動内容

- ・カメ類調査とアカミミガメ等外来カメ類の防除
- ・ニホンイシガメの保全
- ・哺乳類調査とアライグマ・ヌートリア等外来哺乳類の防除
- ・コウモリ類の調査と保全
- ・標本の作製と分析

今年度の活動記録

●カメ類調査とアカミミガメ等外来カメ類の防除 内 容

籠ワナによる捕獲調査は、以下の場所と日程で実施した。

ア メ 池（守山区）：6月11日～13日

細 口 池（天白区）：8月24日

鶴舞公園（昭和区）：9月5日

ア メ 池（守山区）：10月15日・16日

大 池（守山区）：10月22日・23日

水広下池（緑区）：10月13日、11月10日



図1. 籠ワナで捕獲されたミシシippアカミミガメ（アメ池）

浮島型ワナによる捕獲調査は、以下の場所と日程で実施した。

塚ノ杵池（名東区）：5月21日～継続

（各月1～2回の見回り）

二 ツ 池（守山区）：6月9日～11月23日

（各月1回の見回り）

蛇 池（西区）：7月11日にワナ回収



図2. 浮島型ワナの設置（猪高緑地・塚ノ杵池）

連 携

二ツ池の自然と緑を守る会、名東自然倶楽部、細口池生きもの復活クラブ

●ニホンイシガメの保全

内 容

名古屋市のレッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に指定されているニホンイシガメについて、保全の

ための繁殖を試みている。卵はインキュベーターで温度を調整し、孵化する幼体の性別を管理している。これまでに、塚ノ杵池、隼人池、鏡ヶ池産の個体が繁殖に成功している。現在、孵化した幼体は、なごや生物多様性センターで管理して今後、現地に放逐予定である。なお、今年度は飼育個体の維持管理に加えて、飼育設備の見直しや修繕を適宜実施した。



図3. 「カメハウス」内の飼育設備の修繕作業
(なごや生物多様性センター)



図4. 新たな飼育コンテナに移されたニホンイシガメ
(なごや生物多様性センター)

連携

名城大学野生動物生態研究会、なごや生物多様性センター

●哺乳類調査とアライグマ・ヌートリア等外来哺乳類の防除

センサーカメラによる哺乳類調査

内容

市内における哺乳類の生息状況を把握するためにセンサーカメラによるモニタリング調査を実施した。今年度は昨年度から継続して東山動植物園、東山公園南部、大高緑地にカメラを設置し、月に1回程度SDカードを回収するとともに、撮影された動物を記録した。



図5. 巣穴と見られる穴の前で撮影されたアカギツネ
(2024年2月8日大高緑地)

連携

花水緑の会、名古屋大学未来材料・システム研究所林研究室

●コウモリ類の調査と保全

内容

市内におけるコウモリ類の生息状況を把握するために音声調査を実施した。今年度は才井戸流（守山区中志段味）および愛知用水（守山区上志段味、緑区鳴見町）を調査地とした。

実施日

愛知用水（緑区）：4月30日、5月2日、
6月11日

愛知用水（守山区）：5月23日

才井戸流（守山区）：5月1日



図6. ねぐら入口に設置した録音装置（才井戸流）

連 携

四日市大学野生動物保全学研究室

●標本の作製と分析

哺乳類の解剖と標本化

内 容

なごや生物多様性センターで収集している動物（アライグマ、ハクビシン、ヌートリア、シベリアイタチ等）についての解剖と標本作製を実施した。作製した標本をなごや生物多様性センターに収蔵した。

実施日

名城大学野生動物生態研究会：

4月27日、1月25日、2月6日、2月28日



図7. ハクビシンの解剖と標本作製
（なごや生物多様性センター）

連 携

名城大学野生動物生態研究会、なごや生物多様性センター

今後について

調査結果については、今後、「資料編」および「なごやの生物多様性」などで発表する予定である。

水辺の生きものの部会

部会長 小菅 崇之 今井 洸貴

はじめに

当部会では、川やため池などに生息する魚や水草などの生きものを対象に、調査や保全、普及啓発を行っている。

主な活動内容

- 水辺の生きものの調査
- 調査・保全に携わる次世代育成
- なごやの希少種対策
- 外来種対策および普及啓発

今年度の活動記録

事業1 水辺の生きものの調査

●戸田川調査（中川区）6月8日

水生生物の調査を行った。結果、魚類5種をはじめカメ類やエビ・カニ類が確認された。

●すり鉢池調査（名東区）6月24日

2020年に行われた池干しの事後調査を行った。昨年に引き続きカダヤシをはじめとした外来種の増殖が顕著であった。

●ガマ池調査（北区）6月26日

2019年に行われた池干しの事後調査を行った。結果、魚類4種や水生昆虫などが確認され、特にフナ類やモツゴは昨年と比較して増加した。

●守山区北部調査（守山区）7月8日

守山区北部の私有地の池や沢について、ドジョウ類を中心に調査を行い、安定的な生息を確認した。

●庄内川調査（守山区）7月14日・9月8日

吉根堰堤周辺にて、投網などを用いての水生生物調査を行い、特定外来種のコクチバスを採捕した。



図1. 捕獲されたコクチバス（撮影：鳥居亮一）

●本地池調査（天白区）9月18日

浚渫工事の計画を受け調査を実施した。調査の結果、在来水生生物が確認できなかったため、当部会としては保全策をとらないことにした。

●二ツ池調査（守山区）10月10日・24日

前年度に工事が行われたため、池内の生物を一時的になごや生物多様性センターで維持管理していた。10月10日に行われた生物調査の結果により再放流が可能と判断されたため、同月24日に保護していた生物の再放流を行った。



図2. 二ツ池調査の様子

●水広下池調査（緑区）10月13日

池の水抜きを伴う工事の計画を受け事前調査を行った。水広下池の調査に加え、池下流の水路や付随する4つの池の調査を行った。

●平野池調査（緑区）10月17日

浚渫工事が予定されているため、調査を実施した。ホテイアオイが一面に繁茂し、数種の水生昆虫が確認できたが、当部会としての保全は行わない方針とした。

●隼人池調査（昭和区）10月24日

前年度に行われた池干しの事後調査を行った。調査の結果、池干しの前後で生物相に大きな変化は見られなかった。池干し時に駆除した外来種のカダヤシとブルーギルの個体数が多く、急激に繁殖していると思われる。

事業2 調査・保全に携わる次世代育成

●植田川（天白区）月1回定例

名城大学のサークルである「野生動物生態研究会」との協働で、タモ網による水生生物調査やサークル内の生物調査初心者に対するスキルアップ講座を行った。

●液浸標本の管理と作成（センター内）

なごや生物多様性センターに収蔵されている標本について、液の交換やラベルの管理を行った。実行日は4月26日、5月24日、7月12日。

●定例講座

本事業は次世代育成の一環として、生物多様性や保全活動について学び、なごビオに興味を持ってもらいながら緩やかなコミュニティを形成することを目的として「ビオトーク!」という名称で実施した。

一回目は6月2日に学生に限定して、ビオトープをテーマに勉強会を開催した。二回目は8月2日に参加者やテーマを限定せずに行った。三回目は12月22日にフィールドをテーマに行った。



図3. 会場の様子

事業3 なごやの希少種対策

●塚ノ杵池調査（名東区）5月3日・10月19日

塚ノ杵池エコトーププロジェクトの一環として、池の北西部と南東部において魚類や甲殻類、水生植物の調査を行った。新たに埋土種子から発芽した植物なども見られた。

●水生植物の域外保全（センター内）5月3日

センターの屋外で維持している水生植物の植え替え、ヘドロの除去のほか、劣化した桶の入れ替えなどを行った。

●才井戸流（守山区）5月25日・26日

近畿大学、岐阜大学との協働で魚類、甲殻類などの調査やDNA調査のための採捕を行った。

●カワバタモロコの域外保全（港区）6月4日

戸田川緑地農業科学館で生息域外保全しているカワバタモロコの現状確認と水槽の整備作業を行った。飼育は行えているものの世代交代がなされておらず、次年度の繁殖計画の課題を確認した。



図4. 整備作業の様子

●水生生物の保護、生息域外保全（センター内）

池の工事に伴う一時的な保護を行っている。10月までは前年度に工事が行われた二ツ池の生物を、11月以降は水広下池の生物の維持管理を行っている。また、カワバタモロコをはじめ、生息域外保全や普及啓発用の生物の維持管理を行っている。

●水田雑草調査（千種区）8月25日

なごや東山の森づくりの会と協働で希少種の調査を行った。また、森づくりの会に対して水田雑草の解説を行った。

●名古屋城外堀水生生物調査 9月22日

2012年以降調査を続けている。本年度はオニバスが5株確認できた。ハスは前年に発芽した株が分布を大きく広げ、多数の花托を確認できた。



図5. 調査で確認されたオニバス

事業4 外来種対策および普及啓発

●園芸スイレン駆除（名東区）

5月3日・10月19日

塚ノ杵池エコトーププロジェクトの一環として、駆除活動および駆除方法の模索を行った。5月3日は、池の中央部において根茎の除去や浮葉の刈り取りを、10月19日は、池の南東部にて根茎の切断を行った。

結果と今後について

本年度も引き続き、池の水抜きを伴う工事の計画を受けての事前調査が多かった。在来種および希少種保護のため、工事の事前調査は引き続き行っていきたい。

本年度は一斉調査事業が甲殻類調査であったため、運営等に助力した。詳細はなごや生きもの一斉調査2024の報告書を参照。

次世代育成の新たな試みとして、「ビオトーク！」と称し定例勉強会を開催した。本部会をはじめとする活動に興味を持ってもらえたほか、情報交換の場としても活用できた。各回で新規の参加者が得られたことに加え、本部会が扱う水生生物以外に興味を持つ参加者も見られた。一方で、テーマ決めや内容等課題も見られたため今後の運営について検討を要する。

はじめに

生物情報モニタリングデータベース部会では、協議会（なごビオ）の行う生物調査・既存文献・市民の通報などから得たなごやの生物多様性の現況についての情報を集約・一括管理するとともに、集約された生物情報を広く提供するツールとして活用することを目的として、平成23年度からデータベースの構築を行っている。

主な活動内容

生物情報の収集・登録・発信として、なごや生物多様性センターのウェブサイト「なごや生きもののマップ」を通じた市民からの生物情報の収集、なごビオの各部会や一斉調査等の結果のデータベースへの登録、情報が集まった生物の分布図のウェブサイト上での提供を行っている。また、昔の写真・フィルムのデジタルデータ化およびデータベース作成、空中写真の蓄積も行っている。

生物情報モニタリングデータベースのページ
<http://www.bdnagoya.jp/creature/database.html>

今年度の活動記録

●部会の開催

今年度は2回の部会を開催した。

●生物情報の収集・登録・発信

○市民からの生物情報の収集

一昨年度から運用されている、なごや生物多様性センターのデータベース「なごや生きもののマップ」(図1)を使い、広く市民から目撃情報の募集を行った。



図1. なごや生物多様性センターのデータベース
(https://ikimono.city.nagoya.jp/ikimono_map/)

このデータベースでは募集する生物情報は特定種に限っていないが、各部会が特に情報を集めたい種について、それぞれのよく見られる季節に、市民やなごビオ会員・市民調査員に情報提供を呼びかけることとしていた。しかし、今年度はほとんど呼びかけができなかった。

その結果、令和6年1月から令和7年1月10日までに寄せられた情報は76種144件で、昨年度（昨年度は80種160件）からやや減少した。種別では多い順にアライグマの32件、タヌキ11件、ヌートリア7件、ミシシippアカミミガメ6件、オオキンケイギク5件であった。分類群別で見ると、哺乳類がもっとも多く60件であった(表1)。ただし、昨年度は報告件数1位であったキツネの報告件数は、NHKのTV番組「ダーウィンが来た！」でも取り上げられたにもかかわらず、今年度は少なかった。新しくなったデータベース運用後に市民から寄せられたタヌキの分布図を図2に示した。

表1. 寄せられた情報の分類群別件数（多い順）

分類群	件数
哺乳類	60
種子植物	43
昆虫類	19
は虫類	9
鳥類	7
魚類	2
両生類	1
貝類	1
その他	2
計	144

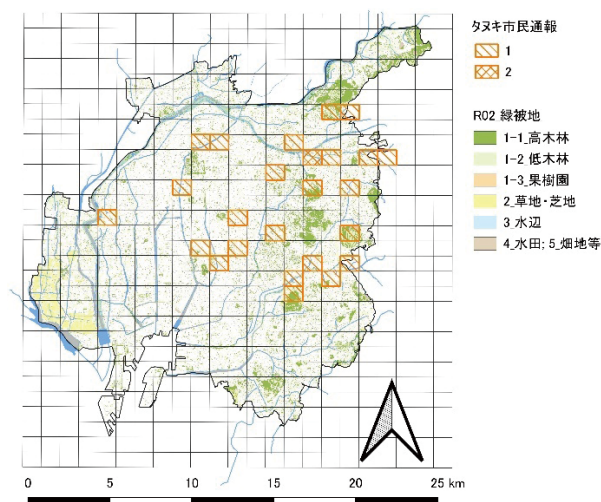


図2. タヌキの分布（2022年4月～2025年1月）

○なごビオの調査結果等のデータベースへの登録

昨年度、名古屋市環境局の「名古屋市内の生態系に重要な場所の可視化事業」の一環で、過去のなごビオ部会活動で得られた生物データを、データベース未登録のものも含めて市に提供したが、電子化されて戻された。ただし、データベースへの登録のためには若干のフォーマット修正が必要で、その作業にまだ着手できていない。

○生物情報のウェブサイト上での提供

今年度は図2の通り、タヌキの分布図を作成

した。遅れているが、過年度作成分の分布図も含めてウェブサイトにも掲載予定。

○写真・フィルムのデジタルデータ化およびデータベース作成

浜島繁隆氏より寄贈された過去のなごやの自然の写真・フィルムのデジタルデータ化は昨年度に完了し、今年度、写真の撮影情報のリストを報告書資料編に載せた。

○空中写真の蓄積（ドローンによる空撮）

今年度は里山林・社寺林部会や東山森づくりの会の要望を受け、湿地の水量回復を目的とした樹木の伐採予定のある平和公園のハンノキ湿地の集水域の樹林の撮影を11月18日に実施した（図3）。



図3. 平和公園ハンノキ湿地集水域の樹林の空中写真

今後について

今後も生物情報の収集・登録・発信を行っていく。また、情報がある程度集まった種については、種ごとの分布図を作成し、報告書やウェブサイト等で紹介していきたい。

なお、次年度のドローンによる空撮対象地は、平和公園または東山公園の一部で検討している。

里山林・社寺林部会

部会長 長谷川 泰洋 副部会長 橋本 啓史 西部 めぐみ

はじめに

里山林・社寺林部会は、本年度で8年目となりました。本部会は、里山林や社寺林等の樹林地を対象として、その保全管理の効果や植生の質（郷土種の保全状況、希少種、巨樹の分布・生育適地等）の調査を進め、より生物多様性保全に資する保全手法を開発し、啓発に資する知見を集積することを目的にしています。

部会事業は、基本的に昨年度の活動を引き継ぎながら適宜事業名を実態に合わせて直し、事業①里山林・社寺林における植物相・植生調査、事業②希少種の分布および生育環境調査、事業③巨樹の生育状況調査、事業④里山生態系の再生・回復調査、⑤活動成果の普及啓発手法の検討、実施を行いました。

事業①及び③では、緑区、守山区、及び今年度は港区も対象に調査地を選定して、区別に集中的に調査を行い、成果の可視化を図るとともに、区土木事務所や地元保全団体等の地域団体との情報共有を図りました。事業①の主な成果として、市内で絶滅とみられていたキッコウハグマの群落、しばらく現存が確認できていないクマノミズキの群落を確認するなど、生物多様性保全の観点から重要な成果が得られました。また、事業③では、猪高緑地のシンボルツリーである井堀の大クスや市内で生育していることが珍しいクロキの巨木（自生かどうかは定かではない）の樹齢の計測を行いました。

本報告では、トピックとなる成果が得られた事業①、②、④、⑤の活動状況と主な成果、活動の様子を報告します。

令和6年度の主な活動と成果

事業①：里山林・社寺林における植物相・植生調査

本年度は緑区、守山区、名東区の主要な樹林地を対象として、フロラリスト及び代表地点に

おける植生調査を行いました。また本年度は、本部会でこれまでに調査できていない市内の西側の調査の手始めとして港区の日光川河口部の河岸の植物相調査を行いました。

期 間 2024年5月～10月

場 所 東小川（5/11）、藤巻町（5/18）、おかざき自然体験の森（7/26）、みどりが丘公園（7/29）、牧野ヶ池緑地（10/29）、竜泉寺（1/25）、滝水池（2/20）、白豪寺（2/27）

活動回数 8回

参加人数 延べ25人

成 果 緑区、守山区の調査は継続中のため、合計の種数はまだ未確定ですが、各区で400～500種程度のフロラリストを作成中です。

今年度も、名古屋市内で絶滅とされていたり、しばらく現存が確認できていない希少性の高い植物を記録することが出来ました。



図1. 絶滅判定だったキッコウハグマの確認

主なものとして、市内で絶滅とみられていたキッコウハグマの群落（図1）、しばらく現存が確認できていなかったクマノミズキの群落（図2）などを確認しました。日光川河口部では、汽水域であることもあり、市内で稀な水辺の植物であるカワデシャやハマダイコン、ゴキヅル（市VU：絶滅危惧Ⅱ類）などを確認しました。



図2. 現存が確認されたクマノミズキ

事業②：希少種の分布および生育環境調査

市内東部の緑地において菌従属栄養性のラン科植物であるサイハイラン（市VU：絶滅危惧Ⅱ類）の生育環境の調査を行いました（図3、図4）。



図3. サイハイランの生育の様子



図4. サイハイランの調査の様子

市内では湿潤でやや日陰の多いコナラ林に生育していますが、市内の分布は極めて限定的なため、今後の保全のために、生育環境を明らかにすることを目的としています。調査では、本種の生育地7枠と非生育地11枠の調査枠を設置して、土壌硬度、土壌水分、土壌EC、草本層種数の環境の差を明らかにします。なお、本調査は、名古屋産業大学の学部4年生が卒業研究として調査に参加して、データを取りまとめました。

この結果、本年度の調査地の設定においては、生育地と非生育地で環境に有意な差はみられませんでした（表1）。土壌ECはやや生育地の方が高い傾向がみられました。まだ調査枠の数が少ないため、次年度以降も同様の調査を継続して、本種の保全にとって有意義な成果を得ていきたいと考えています。

表1 サイハイランの生育地・非生育地の環境

	土壌硬度 (mm)	土壌含水率 (%)	EC ($\mu\text{S}/\text{m}$)	草本層種数
生育地	9.9	4.7	0.034	5.3
標準偏差	2.0	4.1	0.037	3.6
非生育地	11.3	5.3	0.025	5.0
標準偏差	2.5	3.4	0.009	3.4

期 間 2024年6月～8月

場 所 市内東部の緑地
(6/4、7/5、8/1)

活動回数 3回

参加人数 延べ16人

協 働 名古屋産業大学

事業④里山生態系の再生・回復調査

なごや東山の森においては、なごや東山の森づくりの会の主導により、関係各位の協力のもとに、緑地内の湿地生態系の回復を図る調査、保全活動を進めています。

湿地生態系の回復のために重要とみられている保全作業に、湿地集水域の森林の蒸散量を抑制するための森林管理があります。この管理を効果的、効率的に行うためには、湿地集水域の

森林を構成する樹種別の蒸散量を推定して、伐採を優先すべき樹種や林分を特定する調査が有意義です。

そこで部会では、樹木を伐採する予定があるなごや東山の森のハンノキ湿地と天白溪湿地の集水域の森林を調査対象として、樹種別の蒸散量を推定するための樹木調査を行いました（図5、図6）。



図5 天白溪の樹木調査の様子



図6 樹木調査後の集合写真

この樹木調査においては、対象木の樹種、樹高、枝下高、胸高直径、枝張りを計測、記録しました。本調査では、蒸散量の推定だけでなく、調査データを用いて、樹冠幅（樹冠面積）から胸高直径を推定するためのアロメトリー式の作成も試みました。この式ができると、ドローン等で撮影した空中写真で樹冠幅（樹冠面積）を確認することで、樹木ごとの胸高直径がわかり、

胸高直径を算出に用いる蒸散量の推定を行うことができるようになります。湿地集水域の森林の管理計画を策定することなどに役立てられます。なお、本調査においても、名古屋産業大学の学部4年生が卒業研究として調査に参加して、データを取りまとめました。

結果として、ハンノキ湿地、天白溪湿地で蒸散量が多い樹種を明らかにすることが出来ました（図7）。また、様々な樹種の中で、ソヨゴについては、ある程度信頼性の高いアロメトリー式を作ることが出来ました。

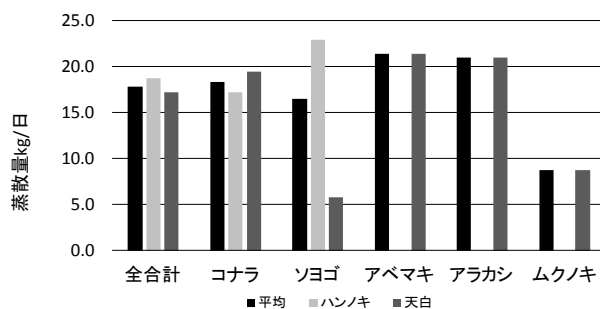


図7 樹種ごとの蒸散量の平均と全樹種の蒸散量の平均

期 間	2024年10月
場 所	ハンノキ湿地（10/1）、天白溪湿地（10/15）
活動回数	2回
参加人数	延べ27人
協 働	なごや東山の森づくりの会、名古屋産業大学

事業⑤活動成果の普及啓発手法の検討、実施

事業の成果をいち早く、効果的に管理者等の関係各位に伝える事業を展開しています。

本年度は、一昨年に発行したクロミノニシゴリのパンフレットの情報を更新して、改訂版として1,000部印刷して発行しました。

また、緑区の蝮池街園とみどりヶ丘公園において、管理者の方に希少種が生育している現場を案内して、保全の方法を検討しました（図8、図9）。



図8. 蝮池街園でマメナシを案内する様子



図9. みどりヶ丘公園で案内する様子

蝮池街園には、緑区で初めてマメナシを3個体確認しています。まだ開花が確認できない小さな個体で、それぞれの樹高は1.85m (DBH 9 mm)、1.18m、0.83mでした。現在、母樹となりうる大きな個体が確認できていませんが、過去に生育していた可能性があります。みどりヶ丘公園では、水辺沿いに生育するクロミノニシゴリやワタゲカマツカ、クマノミズキの自生地のご案内などを行いました。両緑地共に、管理者の方々と管理状況や今後の保全の方向性などについて意見交換を行いました。

本部会では、希少植物の新たな分布確認が相次いでおり、なごやの生物多様性保全上、重要な情報を得られています。今後もその成果を効果的に活用していくための仕組みづくりを進めていきます。

期 間 2024年10月

場 所 蝮池街園、みどりヶ丘公園 (10/7)

活動回数 1回

参加人数 4人

今後について

部会活動も8年を経まして、植物相調査を行った緑地は70カ所を超えました。また、希少性の高い植物の分布についても、その詳細が判明しつつあります。次年度以降も同様の調査を継続しながら、フロラリストを公開する仕組みを作っていくなど、より成果を地域に還元する取り組みを進める予定です。

また、本部会で集めてきた情報は、2023年後期に名古屋市の公有地として初めて自然共生サイトに認定されたなごや東山の森の申請に活用されました。今後もこうした名古屋市の施策の支援にもなる様に、更なる活動の充実とより効果的な啓発、普及（生物多様性の主流化、SDGs、ネイチャーポジティブへの貢献）を図っていきます。

はじめに

本部会の活動は今年度で発足から4年目になり、活動内容も非常に充実してきた。本年度の活動に関しては、主に昨年の活動を継続する形で取り組んできた。主に各緑地帯で活躍されている自然活動家の方を中心に構成されているが、その方達により市内の両生類保全活動や現状把握をより充実させる目的で発足が望まれ、本部会活動が始まった。当初の発足目的は一定の成果を積み重ねることが出来たと思われるが、以下本年度の主な活動内容を紹介する。

主な活動内容

●両生類の現状把握のための生息調査

オワリサンショウウオ、アズマヒキガエル、ニホンアカガエルの産卵状況等を把握。水田生カエルやアカハライモリの調査等。

●ウシガエルとアメリカザリガニの防除

主に両生類に影響を及ぼす恐れのある繁殖場所の外来種防除。

●生息域内外における保全活動の実施と支援体制づくり

オワリサンショウウオ、アズマヒキガエル、ニホンアカガエルの産卵場所の整備。オワリサンショウウオの幼生一時飼育を行う、里親保全活動等。

今年度の活動記録

●両生類の現状把握のための生息調査

・オワリサンショウウオ・アズマヒキガエルの調査

両生類の調査は、主に繁殖時期を中心に行うことが生息数を把握するのに効率が良いため、サンショウウオやヒキガエルの繁殖期である2～

3月に調査を重点的に行った。そのため、両種の報告は昨年度末に行われた活動を記す。

オワリサンショウウオ（図1）の産卵場所の調査は、昨年と同様15ヶ所中11ヶ所で産卵が認められたが、総産卵数は前年の302卵塊から大きく増え、407卵塊確認された。これは、一箇所の産卵場所が大きく増加したことによるものである。また、ある一つの産卵場所の事例で、幼生期に水場が枯渇することが頻繁に起こるのが観察されることから、その場所から極めて近い湧水のある場所に水辺を確保し、その場所へ幼生を放流することを毎年試みた。すると、放流し始めてから4年後に初めて放流先にて産卵が確認され、その後毎年産卵するようになった。つまり、移植先にサンショウウオの繁殖集団が定着したことを意味することになる。この場所では令和6年の時点で33卵塊産卵が確認され、この事例も産卵数増加の一因となった。



図1. オワリサンショウウオ

アズマヒキガエル（図2）は昨年の総産卵数が9卵塊と極めて危機的な状況である。令和6年の調査も昨年同様9ヶ所調査し、4ヶ所で産卵が確認されたが、総産卵数は10卵塊と昨年同様極めて少ない値であった。また、一箇所の産卵場所における産卵数が非常に不安定なため、昨年産卵の記録があったとしても今年は観察されないという箇所が見受けられ、サンショウウオに比べアズマヒキガエルの方が危機的な状況にあると言える。



図2. アズマヒキガエル

・ナゴヤダルマガエル

名古屋市内の生息場所は、ほぼ水田であるが、昨年度新たに東区の徳川園にて生息を確認した。今年度も継続調査を行なった(図3)。昨年度の調査は6月19日、今年度の調査は6月17日と時期はほぼ同じであったが、昨年度の調査時には後肢が発達した変態間近の幼生が複数確認されたのに対し、今年度の調査では発生初期の幼生が数匹のみの確認であった。徳川園では本種が以前から生息しているようであるが、インターネット上で公開されている古地図を見る限り、周辺に水田や湿地らしき地形は江戸時代以降見受けられない。今後詳細な研究として、核遺伝子を用いたゲノムワイドな手法で本地域の個体の由来を詳細に調べていきたい。



図3. 一時捕獲したナゴヤダルマガエル

・その他

ニホンアカガエルの産卵調査も定量的ではないが例年どおり調査を行なった。産卵状況は昨年度とほぼ変わらない状況であるが、過去に産卵が全く見られなくなった場所も存在することから、油断できる状態ではない。アカハライモリに関しては、愛知教育大学の島田知彦准教授の研究の協力を行い、形態的解析を中心とした解析に寄与した。

連 携

名古屋市立大学生物多様性研究センター

名古屋市東山総合公園

地元保全団体および土地管理者ほか

●ウシガエルとアメリカザリガニの防除

・平和公園

平和公園は湿地が豊かな生き物にとって非常に重要な丘陵地である。しかし、アメリカザリガニとウシガエルが大繁殖しているのが現状である。今年度は湿地を生息場所とする在来種を維持するために、東山森づくりの会が中心となり、過去に比べても大規模な防除を試みた。

活動期間 5月23日～12月16日 67日間

活動人数 21名

捕獲実績 アメリカザリガニ 13,671匹

ウシガエル 3,243匹

(内成体42匹、幼体240匹、幼生2,961匹)

防除の方法は、もんどり罟を設置し、週一回以上の見回りを行い、捕獲されたアメリカザリガニとウシガエルを回収すると同時に、タモ網を使用して人力での捕獲も試みた。タモ網はもんどり罟ではあまり捕獲できない稚ザリガニの捕獲や、ウシガエルの幼体、特に幼生の捕獲に有効で、もんどり罟と並行することでより効率的に防除が行えた。アメリカザリガニは1日で約2,000匹捕獲した日もあり、ウシガエルの幼

生はタモ網を使用した半日の捕獲で約1,000匹捕獲した日もあった。



図4. 捕獲されたアメリカザリガニ



図5. タモ網で捕獲されたウシガエルの幼生



図6. タモ網での防除風景



図7. もんどり罠の設置風景

・猪高緑地

緑地内のすり鉢池にて、熱田ガールスカウトの協力により、主にアメリカザリガニの防除事業を行なった。活動内容は以下の通りである。

活動日	10月24日
活動人数	ガールスカウト 6名 部会員 5名
捕獲実績	アメリカザリガニ 271匹 (内 稚ザリガニ 80匹) ウシガエル 4匹 カダヤシ 多数

もんどり罠を12箇所を設置し、設置から5時間後罠を回収した。もんどり回収後には多少のタモ網による捕獲も行なった。

連 携

なごや東山の森づくりの会、名東自然倶楽部、牧野ヶ池緑地生態系保全協議会、名古屋ECO動物海洋専門学校、名城大学野生動物生態研究会、水生園を育む会、東山総合公園ほか

●生息域内外における保全活動の実施と支援体制づくり

・生息域内保全活動

例年どおり名古屋市内で活躍されている自然活動家団体と協力して、サンショウウオやヒキガエルの産卵地整備や観察を実施した。サンショウウオやヒキガエルの産卵場所となる水辺の多くは、自然のままでは水辺が埋没する恐れのある箇所がほとんどであるため、毎年産卵前に手入れをする必要がある。また、前述の水枯れが深刻な産卵場所から移植を試みた場所に関しても毎年のように整備が必要であり、今年度も昨年の産卵状況や幼生の育成状況を加味しながら整備を行なった（図8）。



図8. 移植先の整備風景

・サンショウウオ・ヒキガエルの一時保護

例年行われている活動の一つで、オワリサンショウウオの卵塊の一時保護を行い、孵化した幼生を変態直前まで育て、元の水辺に戻す活動を今年度も行なった。一時保護を行う産卵場所は、前述した「水枯れが深刻な産卵場所」であり、再放流を行う際には、元の産卵場所と移植先の両方に分け放流を行なった。今年度の放流実績は545匹（産卵場所：104匹 移植先：441匹）であった。この活動により、一時保護を行なった場所は、以前に比べ安定的な産卵が観察されるようになった。ヒキガエルに関しては、今年度は一時保護を行わず、一部の場所でサンシ

ョウウオと同様産卵地から程近い人目につきにくい安定的な水辺に移植を試みた。



図9. 一時保護育成しているオワリサンショウウオの幼生



図10. オワリサンショウウオの一時保護の様子



図11. 一時保護育成後に放流する風景

連携

なごや東山の森づくりの会、名東自然倶楽部、牧野ヶ池緑地生態系保全協議会、名城大学野生動物生態研究会、東山総合公園ほか

おわりに

本部会は4年の活動の中で、市内の両生類の生息状況を把握してきた。サンショウウオに関しては、安定的でない産卵場所が存在しているが、調査を始めて以来比較的安定的な産卵が認められる場所も存在する。一方アズマヒキガエルは、市内でも非常に危機的な状況で、市内から完全に消失してもおかしくない状況である。両種は産卵場所として同じ場所を利用することが多く、産卵地整備だけではアズマヒキガエルを保全できない事が考えられる。今後は産卵地保全のみに関わらず生息地全体を保全する事を考える必要がある。水田生のカエル類では、現状を全て把握しきれておらず、今後の課題であるが、以前からの課題であったナゴヤダルマガエルの遺伝学的な調査も今後前進させる必要がある。ナゴヤダルマガエルは、トノサマガエルとの交雑だけでなく、徳川園に生息している本種が在来由来であるかなど、詳細な遺伝子解析が求められることから、名古屋市立大学に協力を仰ぎながら進めていく必要がある。

はじめに

本部会は令和4年度より発足し3年目を迎える。16名の部会員で活動をし、名古屋市内および近隣の地域に分布する昆虫・クモのファウナを解明し、希少種の評価や保全に貢献するため調査を行っている。

主な事業内容

- 定点調査
- 若手連携の採集調査会
- 標本資料の作成と整理

今年度の活動記録

● 定点調査

東山総合公園を中心に、千種区、天白区、港区、守山区、西区、名東区、緑区の7区で調査を行った。コウチュウ目47科221種、カメムシ目10科15種、トンボ目4科8種、ハチ目2科5種、チョウ目6科24種、バッタ目4科4種、アミメカゲロウ目2科2種、ハエ目1科1種、ゴキブリ目1科1種の合計76科281種の昆虫を確認した。また、纏めとして「なごや東山の森で確認されたカミキリムシ類」が『佳香蝶』に掲載され(伊藤, 2024)、それによると東山公園域には過去も含め64種のカミキリムシが見つかったとのことである。特定外来生物のクビアカツヤカミキリとツヤハダゴマダラカミキリも見つかっている。

庄内川ではガサガサを行い、水生昆虫類を調査し、河口部ではライトトラップも行った(図1)。またスズメバチの生態調査も行っており、従来よりも長生きな働きバチなども確認している(図2)。名東区の猪高緑地では、ライトトラップや夜間のルッキングにて調査を行い、塚ノ杵池のエコトーン再生においての、昆虫類の増減を調査している(図3・4)。



図1. 水生昆虫類の調査(庄内川)



図2. コガタスズメバチの初期巣



図3. ライトトラップ調査(塚ノ杵池)



図4. ベニイトトンボ (塚ノ杵池)



図6. ムシの仕分け作業 (名城高校)

●若手連携の採集調査会

令和6年度は名城大学附属高校 自然科学部の生徒と連携し、庄内川河川敷においてピットホールトラップを月一回の割合で仕掛けて調査を実施した(図5・6)。これには調査方法やノウハウの伝授の目的もあり、19科88種のコウチュウ類が見つかった。ハコダテゴモクムシなどの名古屋市初記録種も見つかり、乾燥気味ではあるがよい河畔林が残されている事が分かった。



図5. トラップの回収 (庄内川河川敷)

●標本資料の作成と整理

なごや生物多様性センター、もしくは(株)名古屋昆虫館標本室にて同定や標本作成を行った。これらの標本は、次世代の昆虫研究家やパラタクソノミスト(準分類学者)を育成するための講座でも利用され、技術の移管や向上の目的のため利用され、作成された標本は、なごや生物多様性センターに蓄積されている。

また、本年度は名城大学昆虫学研究室よりなごや生物多様性センターへ、昆虫類の標本の寄贈を受けるにあたり整備がなされている。主にハチ目、ハエ目の標本でタイプ標本も含まれる。

引用文献

伊藤健太郎(2024). なごや東山の森で確認されたカミキリムシ類. 佳香蝶, 76(100):100-108. 名古屋昆虫同好会.

はじめに

令和6年度の広報・PR事業として以下の事業を実施した。

- ・令和5年度活動報告会
- ・池干し（水広下池）
- ・オオキンケイギク対策
- ・なごや生物多様性サマースクール2024
- ・なごや生きものの一斉調査2024
（アメリカザリガニとエビ・カニ類編）
- ・イベントへの出展

※池干し、サマースクール、一斉調査については別頁に掲載

令和5年度活動報告会

令和5年度活動報告会を以下の日程・会場で開催した。報告会では、5部会（動物、水辺、里山林・社寺林、両生類、昆虫類）の活動、一斉調査2023ハエトリグモ編について報告した。また、森林総合研究所の川上和人氏に「火を噴き灰降る西之島、鳥は減ぶか、減ばぬか」をテーマに講演していただいた（図1）。

日 時 令和6年5月12日（日）

会 場 名古屋市立大学桜山キャンパス
さくら講堂

参加者 119人



図1. 川上和人氏の講演

オオキンケイギク対策

オオキンケイギク対策として、山崎川での駆除活動と市民参加の抜き取り会を以下の内容で実施した。山崎川の駆除活動は名古屋建設業協会と連携して行っているもので、なごビオは鼎小橋周辺での駆除を担当した。長年にわたる駆除活動の成果で、駆除量は大幅に減少している。抜き取り会は、昨年が続いて植田川河川敷（なごや生物多様性センター周辺）で行った。一般市民に参加していただき、オオキンケイギク対策の普及啓発を行った（図2）。

●山崎川の駆除活動

日 時 令和6年5月11日（土）

場 所 山崎川左岸（鼎小橋周辺）

参加者 5人

駆除量 45リットルごみ袋1個

●抜き取り会

日 時 令和6年5月25日（土）

場 所 植田川河川敷

参加者 14人（市民5人）

駆除量 45リットルごみ袋9個



図2. 抜き取り会の様子

イベントへの出展

●環境デーなごや2024

「環境デーなごや中央行事」が9月14日（土）に久屋大通公園で行われた。なごビオもブースを出展し、なごや生きもの一斉調査2023ハエトリグモ編の結果報告を行うとともに、生息域外保全をしている絶滅危惧ⅠA類（名古屋市）のカワバタモロコを展示した。また、各部会の活動を紹介するパネルを展示するとともに、活動報告書等を配布した。猛暑日となる暑い一日であったが、大勢の来場者でにぎわった（図3）。



図3. 環境デーなごやのブース

●なごや生物多様性センターまつり

「なごや生物多様性センターまつり」は11月9日（土）に行われた。なごビオはなごや生きもの一斉調査2023ハエトリグモ編の結果報告に加え、なごや生物多様性サマースクール2024で作成した小鳥の巣箱や水鉄砲などを展示し、PRを行った（図4）。

また、外来種ブラックバス試食のブースも出展した。午前・午後の2回、ブラックバスの唐揚げを提供し、大勢の人が行列を作った（図5）。

両方のブースとも名城大学の学生の皆さんに協力いただいた。



図4. センターまつりのブース



図5. ブラックバス試食のブース

なごや生物多様性サマースクール2024

はじめに

なごビオでは生物多様性を知る第一歩として、小中学生を対象に、子どもたちが参加しやすい夏休みを利用して「なごや生物多様性サマースクール」を開催しています。

「夏休みの宿題 応援します!」をテーマに、自由研究などの助けとなるよう、なごビオ会員が講師となり、専門知識を活かした様々な講座を開催しています。里山や川など、身近な自然環境に生息・生育する生きものたちに直接出会うフィールドワークから、室内でじっくり学ぶ実習まで幅広い講座を企画しています。

今まで気付かなかったことや、普段見ることができない世界に目を輝かせる子どもたち。ワクワクする楽しい活動が学びにつながり、少しでも生物多様性に関心を持つきっかけとなるよう心がけています。

毎年、定員をはるかに超える応募があり、夏休みには欠かせないイベントとなっています。

令和6年度の活動記録

開催期間 7月20日(土)～7月30日(火)

講座数 全9講座

参加者数 143名(同伴者101名)

講師人数 38名



①竹林調査と水鉄砲作り



講師 大高竹の会

日時 7月20日(土) 10:00～12:00

会場 大高緑地(緑区)

定員 15名

②田んぼと畑で生き物さがし



講師 NPO法人 日進野菜塾

日時 7月21日(日) 9:30～12:00

会場 日進野菜塾ファームin流(日進市)

定員 15名

③植田川の水生生物調べ



講師 名古屋市環境科学調査センター

日時 7月23日(火) 9:30～12:00

会場 植田川(天白区)

なごや生物多様性センター(天白区)

定員 20名

なごや生物多様性サマースクール2024

④外来種の昆虫を採って駆除しよう



講師 ビオトープ・ネットワーク中部
日時 7月25日(木) 10:00~11:30
会場 猪高緑地 (名東区)
定員 20名

⑤チョウの採集と標本づくり



講師 名古屋昆虫同好会
日時 7月27日(土) 9:00~15:30
会場 猪高緑地 (名東区)
なごや生物多様性センター (天白区)
定員 30名

⑥甲虫の採集と標本づくり



講師 名古屋昆虫同好会
日時 7月27日(土) 9:00~15:30
会場 猪高緑地 (名東区)
なごや生物多様性センター (天白区)
定員 30名

⑦巣箱を作って森に小鳥を呼ぼう!



講師 相生山緑地オアシスの森くらぶ
日時 7月28日(日) 8:50~12:00
会場 相生山緑地オアシスの森 (天白区)
定員 10名

⑧天白川の水源を訪ねてみよう



講師 名古屋自然観察会
日時 7月28日(日) 9:30~12:00
会場 天白川支流岩藤川源流域 (日進市)
定員 15名

⑨押しプランクトンのキーホルダーを作ろう



講師 名古屋市環境科学調査センター
日時 7月30日(火) 13:30~15:30
会場 なごや生物多様性センター (天白区)
定員 15名

なごや生きものの一斉調査 2024

～アメリカザリガニとエビ・カニ類編～

はじめに

「なごや生きものの一斉調査」の目的は、多くの市民の方々に身近な自然や生きものに親しみと関心を持っていただくことです。今回の調査は「アメリカザリガニとエビ・カニ類」を対象としました。

ワーキンググループ

今回の一斉調査では、水辺の生きものの部会員、甲殻類の専門家、名古屋市環境科学調査センター、事務局で構成したワーキンググループ（小菅崇之、鶴飼普、浅香智也、鳥居亮一、中嶋清徳、岡村祐里子、大畑史江、福岡将之、事務局）で調査方法等を検討しました。

主な活動内容

今年度も、学校と連携し、多くの地点で調査を実施しました。

●実施体制

主 催	なごビオ（事務局：名古屋市環境局 なごや生物多様性センター）
協 力	公益財団法人名古屋市みどりの協会
連携団体	名城大学附属高等学校、名古屋市立 桜台高等学校

●実施内容

(1) リーダー事前講習会

日 程	9月20日(金)午前、21日(土)午前
場 所	なごや生物多様性センター
講 師	中嶋清徳氏
参 加 者	44人

(2) 一斉調査

日 程	9月29日(日)、10月5日(土)・6日(日)
参 加 者	延べ405人
調査地点	31地点

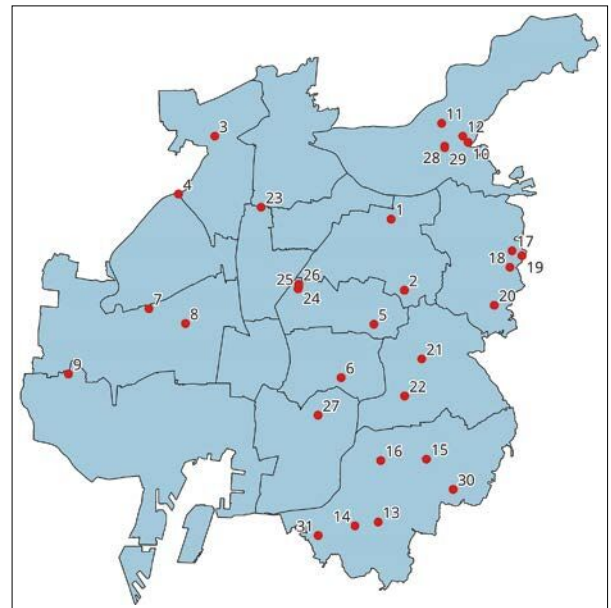


図1. 調査地点図

●実施方法

(1) 調査対象

エビ・カニ類を調査対象としましたが、調査の際に併せて捕獲される魚類等についても、同定しました。

(2) 採集方法

ワナ（モンドリ）の入口が水中に沈むこと、陸地から安全に調査ができる地点など、事前にワナを設置するのに適した場所を5箇所選定し、魚肉ソーセージまたは練りエサを入れて、ワナを最低30分以上設置しました。

ワナを仕掛けた順に回収し、採集できた場合には水の入ったバケツに移動させ、アメリカザリガニ、エビ・カニ類、その他の生物に分類しました。アメリカザリガニは匹数の記録と最大・最小サイズの計測を行いました。エビ・カニ類とその他の生物は種ごとに仕分けた後、匹数を記録しました。

なごや生きもの一斉調査 2024 ～アメリカザリガニとエビ・カニ類編～



図 2. リーダー講習会



図 3. ワナ設置（隼人池公園 隼人池）



図 4. 採集後の記録（大高緑地 緑地内の湿地）

(3) 同定と標本化

標本用の生体をなごや生物多様性センターへ持ち込み、専門家による再同定の後、写真を撮影し、標本とするために冷凍して保管しました。

調査結果

現地での調査結果は表 1、表 2 のとおりです。

今回の調査では、31調査地点でエビ・カニ類 2,164の個体を採集しました。そのうちアメリカザリガニは439個体でした。アメリカザリガニを含めエビ・カニ類が確認された地点は、全体の 77.4%にあたる24地点でした。そのほかに採集されたエビ・カニ類は、テナガエビ、スジエビ、チュウゴクスジエビ、ミゾレヌマエビ、カワリヌマエビ類、モクズガニの 6 種でした。

表 1. アメリカザリガニとエビ・カニ類の調査結果

種 名	本調査	補足調査
アメリカザリガニ	371	68
テナガエビ	22	24
スジエビ	698	884*
チュウゴクスジエビ	0	28*
ミゾレヌマエビ	1	0
カワリヌマエビ類	66	0
モクズガニ	1	1
匹 数	1,159	1,005
合 計	2,164	

※は持ち帰ったサンプルから個体数を推定した。

●調査で採集されたエビ・カニ類



アメリカザリガニ



テナガエビ



スジエビ



モクズガニ

表2. アメリカザリガニとエビ・カニ類以外の調査結果

種 名	本調査	補足調査
ウシガエル	9	0
コイ（飼育型）	0	5
タイリクバラタナゴ	7	0
オイカワ	9	0
モツゴ	987	1,980
タモロコ	14	62
ドジョウ	2	0
カダヤシ	980*	124
ミナミメダカ	119	0
ブルーギル	43	11
ナイルティラピア	2	0
ヨシノボリ類	4	5
ゴクラクハゼ	1	0
ギンヤンマ（幼虫）	0	1
チビミズムシ	0	1
マツモムシ	1	0
コマツモムシ	0	1
巻貝類	0	1
匹 数	2,178	2,191
合 計	4,369	

ワナで採集されたエビ・カニ類以外の生きものを示す。

※は概数

考察

31地点でアメリカザリガニを中心としたエビ・カニ類の調査を行いました。アメリカザリガニを確認したのは、調査地点の38.7%と予想より少ない結果となりました。その原因として、アメリカザリガニが少ない場所にワナを設置してしまったことや、ワナの設置時に仕掛けが底につかず、水中に吊るされてしまうなど、仕掛け方が上手くいかなかったと考えられます。

アメリカザリガニが採集された場所では、アメリカザリガニがエビ・カニ類の中で最も多く

採集されているところが多く、他のエビ・カニ類が少なく感じられました。アメリカザリガニの侵入にともなって、競争が生じたり捕食されたりすることにより、在来種が減少している可能性が考えられます。実際に、アメリカザリガニが生息するため池などでは生態系に影響を与え、自然環境が悪化している例があるため、アメリカザリガニの放流や遺棄が行われないようにしなければなりません。

ため池などで肉食性魚類（オオクチバスなど）や肉食性の強い雑食性魚類（コイなど）の大量駆除のみを行うとアメリカザリガニが増加する傾向があります。環境省は増加したアメリカザリガニを抑制するためには、対象とする水域の生物相全体を考えながら、外来種の総合的な防除を進めて行くことが重要であるとしています。

今後も名古屋市のアメリカザリガニなどの外来エビ・カニ類の生息、増加などの状況を注視していく必要があります。

アンケートの結果

今回の調査にも述べ405人と大勢の方に参加いただきました。参加者のアンケートによると普段は使うことのないワナに何が入っているかわくわく感でいっぱいの様子でした。子どもたちからガサガサをしたかったという声上がるなど、地点ごとで採集できた種類や個体数に差があったようです。

なお、調査結果、調査地点別の特徴の詳しい考察については、「なごや生きもの一斉調査 2024 アメリカザリガニとエビ・カニ類編 調査結果報告書」をご覧ください。

池干し～水広下池（緑区）～

はじめに

水広公園 水広下池では堤防の耐震補強工事が予定されており、池の水を全て抜く必要が生じたことから、生物保護を目的とした池干しを実施することとなりました。

関係団体

なごや生物多様性センター、緑土木事務所

事前調査

水生生物調査：10月13日

事前の生物調査により、池干し時に捕獲される種数や量を推測します。また、池干し後に同様の調査を実施することで、池干しによる生物への影響が分かります。調査はタモ網による捕獲を5名で15分間と、モンドリ（簡易の罟）による捕獲を5基で30分間、籠罟によるカメ類の捕獲を10基で6時間程度実施しました。

また池干しで採集される生物の放流地点候補として、公園内にある別の池等でもタモ網による捕獲や目視によって生物調査を行いました。

表1. 水広下池 事前調査結果

和名	個体数	備考
ニホンイシガメ	1	絶滅危惧Ⅱ類
ウシガエル	1	幼生、特定外来生物
モツゴ	349	
タモロコ	54	準絶滅危惧
カダヤシ	5	特定外来生物
ブルーギル	3	特定外来生物
ヨシノボリ類	1	
スジエビ	1,030	
カワリヌマエビ類	4	
アメリカザリガニ	1	条件付特定外来生物
モクズガニ	1	準絶滅危惧
コシアキトンボ	4	幼虫
タイワンウチワヤンマ	1	幼虫
ヒメタニシ	1	

絶滅危惧種については名古屋市版レッドリスト2020に準拠。



図1. 籠罟を設置する様子

水深・泥厚調査：10月13日

水深と泥厚を計測することで、池干し時に水が抜けきらずに魚が集まる場所や、立ち入ると危険な場所が明らかになります。音波を使用した計測機器とアルミスタッフ（メモリの付いた計測用の棒）で計測しました。



図2. 水深計測の様子

ゲンゴロウブナの回収：10月29日

水広下池は釣り池として市民に開放されており、放流されたゲンゴロウブナ（ヘラブナ）が高密度で生息しています。そのため工事の一環として事前に事業者による地引網や投網を用いた回収が行われました。混獲されたコイはなごや生物多様性センターに持ち込み、適切に処分しました。またニホンイシガメは工事後の再放流に向け、なごや生物多様性センターにて一時飼育しています。

表2. ゲンゴロウブナ回収時に捕獲された生物

和名	個体数	備考
ニホンイシガメ	1	絶滅危惧Ⅱ類
コイ（飼育型）	49	総重量84.8kg
ゲンゴロウブナ（ヘラブナ）	約1,000	

絶滅危惧種については名古屋市版レッドリスト2020に準拠。

池干し：11月10日

池干しには、なごビオ会員、なごや生物多様性センター職員、緑土木事務所職員など約100人が参加しました。

生物は地引網とタモ網、投網によって捕獲され、24種、約32,400個体の生物が確認されました。特に個体数が多かったスジエビ、モツゴ、タモロコはいずれも名古屋市在来の生物ですが、ミシシippアカミミガメやブルーギルといった外

来生物も捕獲されました。また、事前調査では確認されなかった準絶滅危惧種のナマズが97個体捕獲されました。ナマズは水底下池において数少ない大型の肉食魚であるため、外来生物のアメリカザリガニを抑制していると考えられます。

さらにニホンウナギやウキゴリ、モクズガニなどは陸水域と海域を行き来する生物であり、水底下池と海の間でも生物の往来がある可能性があります。

捕獲した在来生物の一部はなごや生物多様性センターに運搬し、工事後の放流に向けて保護しています。また、ゲンゴロウブナは事業者によって回収され、その他の外来生物はなごや生物多様性センターにて、適切に処分しました。

今後は池干しによる生物の変遷を確認できるよう、モニタリング調査を実施していきます。

表3. 池干し調査結果

和名	個体数	備考
ミシシippアカミミガメ	7	条件付特定外来生物
ウシガエル	1	特定外来生物
ニホンウナギ	1	絶滅危惧ⅠB類 池干し終了後に採集
コイ（飼育型）	71	総重量98.52kg
ゲンゴロウブナ（ヘラブナ）	740	
モツゴ	※11,000	
タモロコ	※2,800	準絶滅危惧
ドジョウ	1	絶滅危惧Ⅱ類
ナマズ	97	準絶滅危惧
カダヤシ	133	特定外来生物
ブルーギル	※440	特定外来生物
オオクチバス	1	特定外来生物
ヨシノボリ類	78	
ウキゴリ	10	準絶滅危惧
スジエビ	※15,000	
カワリヌマエビ属の一種	3	
アメリカザリガニ	2	条件付特定外来生物
モクズガニ	30	準絶滅危惧
コシアキトンボ	2	幼虫
オオヤマトンボ	2	幼虫
ウチワヤンマ	5	幼虫
ヒメタイコウチ	1	絶滅危惧Ⅱ類
ヒメタニシ	※2,000	
シジミ属の一種	1	

絶滅危惧種については名古屋市版レッドリスト2020に準拠。

※重量より採集概数を算出



図3. 池干しにて捕獲されたナマズ（撮影：鳥居亮一）



図4. 地引網による捕獲の様子

会員活動支援

なごびオでは、会員が行う地域活動に対し、その活動の活性化と、それを通したなごやの生物多様性の保全を目的に、活動支援を行っています。支援内容は以下のとおりです。

- ▶ 調査機材の貸出
- ▶ 講師・専門家等の派遣やそれに伴う会場借上げにかかる費用負担
(調整等は会員が実施、協議会は費用を負担。1件あたり上限30万円相当)
- ▶ 市民生きもの調査員への催事案内

令和6年度は、以下の活動について支援を行いました。

令和6年度 活動一覧

実施団体名（敬称略）	活動内容
「あいちの海」グリーンマップ	岸壁幼魚採集&チリメンモンスターをさがせ！ with 鈴木カリブ先生
名古屋昆虫同好会	名古屋昆虫同好会主催・特別講演会

上記以外にも、39件の物品の貸出を行いました。

●令和6年度 市民調査員への催事案内件数

月	R6年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R7年 1月	2月	3月
件数	7	7	7	6	6	5	4	4	2	2	2	5

岸壁幼魚採集&チリメンモンスターを探せ！ with 鈴木カリブ先生

「あいちの海」グリーンマップ 大矢 美紀

はじめに

ここ数年続く夏の猛暑の影響で、愛知県近海の海水温が上がり、環境と生態系が著しく変化してしまいました。

海水温が上がったことで、南の海の生きものが北上していることを逆手にとって始めたのが岸壁幼魚採集です。今年度は、始めたばかりですが、今後も温暖化による海の生態系の変化を見守り続けていきたいと思っています。

岸壁幼魚採集



6月2日（日）朝、雨が降っており、開催できるかどうか心配していましたが、観察会が始まる10時には、ぎりぎり雨が上がりました。

観察会の会場は、南知多町の小さな漁港です。初めての観察会ということと参加者の安全確保のため、人数制限をして行いました。一般参加者は、小学生6名、中学生2名を含む17名、知多自然観察会から6名、スタッフ6名のほか講師2名の合計31名が参加しました。



たくさん採れたのはメジナの幼魚。そのほかメバル1、ボラ、アゴハゼ、ドロメ、シモフリシマハゼ、ギンポ、イダテンギンポ、トビイトギンポ、ナベカ、キチヌ、シマスズメダイ2、アカメフグ1。

チリメンモンスターをさがせ！



午後は、南知多総合体育館に場所を移し、「チリメンモンスターをさがせ！」を行いました。

参加者は25名。スタッフ12名と講師2名でした。



画像を使った、カリブ先生の説明は、とても興味深く、参加者全員が大満足でした。

名古屋昆虫同好会主催・特別講演会

名古屋昆虫同好会幹事 伊藤 健太郎

はじめに

名古屋昆虫同好会では、毎年1月の総会の後に、外部から専門家をお招きして特別講演会を開催しております。本年もまた会員活動助成金を活用し、以下の通り特別講演会を開催しました。

講演会要旨



2025年1月19日（日）、名古屋市中心企業振興会館（吹上ホール）にて、今回は東京大学の久保田耕平先生をお招きし、“学研図鑑製作裏話”をタイトルに講演をして頂きました。

久保田先生は東京大学大学院農学生命科学研究科の教授に加えて、日本甲虫学会の会長も務められており、第一線で活躍されている甲虫の研究者であります。もともとはアマチュアの昆虫愛好家でしたが、オサムシの分化の研究を経て昆虫の研究者となり、現在では主にクワガタムシについて研究をされています。

今回は、久保田先生の研究対象のひとつであるルリクワガタ属と、その体内で共生している酵母との関係について講演されました。

ルリクワガタ属は体長10ミリ前後、青や緑の金属光沢が特徴の、小型ながら美しいクワガタムシの一群です。日本にも数種が存在し、標高1000メートル程のブナ帯のような冷涼な環境を中心に生息しています。

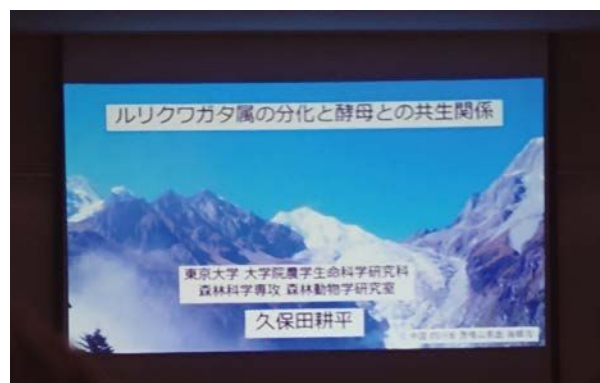
また、クワガタムシを含む朽ち木を食べる昆

虫の幼虫には体内に共生する酵母が存在し、食物として食べる材の消化を助ける働きがあることが知られています。

ルリクワガタの体内に存在する共生酵母を調べ、朝鮮半島や中国などの種との関連を探ることにより、現在日本に生息するルリクワガタ属がどこから来たのか、これからも進む温暖化が与える影響など、様々なトピックについて触れられました。

クワガタムシは言うまでもなく人気の高い身近な昆虫で、現在も多くの人々に採集・飼育をされています。しかしながら、実はそれ故に逆に研究らしい研究はこれまであまりなされてこなかったという面もあります。今回の講演では、クワガタムシについてまだまだ知られていないことが沢山残されていることや、現在進行形で研究が進んでいて未発表の事実もあり、今日知られているクワガタムシについての常識が覆されるかも知れないようなお話を聞くことが出来ました。

会場には名古屋昆虫同好会の会員のみならず老若男女約80名の方々にお集まりいただき、今回も大盛況の講演会となりました。



地域活動支援

なごびオでは、会員以外の活動においても、地域団体がなごやの生物多様性の保全を目的として行っている活動について、調査機材の貸出を行っています。また、必要に応じて、現場指導や生物の同定などの支援も行っています。

令和6年度は、以下の活動について支援を行いました。

令和6年度 活動一覧

実施団体名（敬称略）	活動内容
細口池生きもの復活クラブ	細口池生きもの復活クラブ活動2024

上記含め、7件の物品の貸出を行いました。

細口池生きものの復活クラブ活動報告 2024

細口池生きものの復活クラブ 代表 浅井 正明

はじめに

●ツバメのねぐらが復活して7年



ツバメのねぐら入り



観察会

細口池の活動は、2011年から毎年生きものの調査を実施し、生物多様性の保全を図るとともに、2013年度からツバメのねぐら復活を目的としたヨシ原再生活動を始めました。様々な方法でヒメガマの除去とヨシの再生を図り、2018年に1万羽ともいわれるツバメのねぐらが復活しました。以来7年が経過し、地域住民の多くが夏のツバメの大群との出会いを楽しみ、毎年観察会を開催しています。今年度は、月1回、定例のヨシ原の保全活動、月2回程度の池清掃と排水口清掃、そして湧水か所と流入か所の保全整備を行いました。



●定例活動：毎月第2土曜日 会員数10名

活動日	活動内容
4月13日	ヒメガマ除去、ヨシ刈取り
5月11日	ヒメガマ除去、ヨシ刈取り
6月10日	流入口池のヒメガマ、ヨシ刈取り
7月13日	生物調査準備、湧水か所のヨシ除去
8月6日	ツバメのねぐら入り観察会
8月23日	カメわな、モンドリの設置、
8月24日	生物調査・解説及び特定外来種除去
9月14日	池流末のヒメガマ除去
10月19日	ヒメガマ除去、湧水か所のヨシ除去
11月9日	ヤナギ除去、ヨシ刈取り
12月14日	ヨシ刈取り
1月11日	学区行事準備のため中止

●随時活動

活動日	活動内容
4月1日～ 月2回程度	池内清掃、排水口清掃、 水鳥やヨシ原調査など

●生物調査結果 8/23・24に実施(参加者80名)

調査は、カメわな、モンドリ、タモ網を使って40人の子どもたちと捕獲調査をしました。



結果は下表のとおりです。特筆することはモクズガニが著しく増加したこととミシシippアカミミガメが多数捕まったことです。協議会の宇地原さんが解説し特定外来生物は処分しました。

分類	種別
魚類	モツゴ約800、カダヤシ約1100
は虫類	ミシシippアカミミガメ幼体1・成体6
甲殻類	モクズガニ32、アメリカザリガニ100、ミナミヌマエビ30
両生類	ウシガエル幼体20
昆虫類	ヤゴ1

●13年間で確認された種 今年の新発見はなし

分類群	種名
魚類 6種	ドジョウの仲間、フナの仲間、モツゴ、 トウヨシノボリ、カダヤシ、コイ
甲殻類 4種	モクズガニ、スジエビ、アメリカザリガニ、 ミナミヌマエビ
は虫類 3種	クサガメ、ニホンイシガメ、 ミシシippアカミミガメ
両生類	ウシガエル(幼体多数、成体)
鳥類 25種	パン、オオパン、アオサギ、コサギ、カルガモ、 コガモ、オオヨシキリ、カワセミ、ツバメ、セグ ロセキレイ、ハクセキレイ、カイツブリ、ダイサ ギ、ヨシゴイ、カワラヒワ、カワウケイナ、ヒク イナ、シロハラケイナ、オオジュリン、スズメ、 ハシボソガラス、モズ、ムクドリ、マガモ
昆虫類 10種	ヒメミズカマキリ、ギンヤンマ、シオカラトン ボ、オオシオカラトンボ、チョウトンボ、ウスバ キトンボ、コシアキトンボ、ショウジョウトン ボ、クロイトトンボ、アジアイトトンボ

まとめ

ヨシ原は概ね3千㎡で、良好に成育しておりツバメのねぐらを始め、スズメの大群がヨシの実を餌場にし、オオジュリン、オオヨシキリ、モズなどが見られます。また、多くの水生小動物の住処になっています。細口池の生物多様性の保全にとって課題となるのは、コイの増加とミシシippアカミミガメ・カダヤシ・ウシガエルが顕著に減少していないこと及びアカメヤナギの実生が課題となっています。

助成金事業

なごビオでは、自然環境保全の後継者育成を目的とする活動や、新たに取り組まれる保全活動を支援することで、次世代の担い手づくりや新たな活動の創出を応援しています。

開始から10年目にあたる令和6年度は、4件の助成を行いました。

また、令和3年度から助成金事業に対する寄付の募集を開始し、本年度は合計53,850円（銀行振り込み：30,000円、活動報告会における募金：23,850円）のご寄付をいただきました。ご協力ありがとうございました。

令和6年度 活動一覧

実施団体名（敬称略）	活動内容
地球ハグ倶楽部	みつばちと命のサイクルから学ぶ！ ～BeeHappy ∞ Project～
鳴子きずなの会	鳴子中央公園樹林地での子育てファミリーとの 里山づくり
名古屋経済大学市邨高等学校	学校のビオトープ・緑地帯で行う 生物多様性に関する調査・体験・学習活動
東海中学校・高等学校生物部	東海中学・高等学校生物部活動報告

みつばちと命のサイクルから学ぶ～BeeHappy∞Project～

地球ハグ倶楽部 代表 坂部 里咲・副代表 高松 一史
ニホンミツバチ研究家 白金 丈英

はじめに

2020年3月から大高緑地等でニホンミツバチの調査・保護活動をしています。今年度は1年を通じて実践的に体験を通じて“みつばちの伝道師を育成”する活動を実施しました。

活動内容

●2024年度の活動

- ・6月8日(土)『夏を乗り切るお世話』
- ・6月30日(日)『巣枠からの春の採蜜』
- ・10月5日(土)『採蜜・蜜ろうの精製と利用』
- ・1月25日(土)プラチナ式巣箱づくり
- ・2月8日(土)ミツバチを迎える春仕事
- ・3月22日(土)蜜・花粉源植物について

実施内容

●6月8日(土)『夏を乗り切るお世話』



夏仕様4面巣門（実習）

オオスズメバチ対策のネット設置と巣箱を夏仕様の四面巣門に交換しました。

●6月30日(日)『巣枠からの春の採蜜』



巣枠からの春の採蜜（実習＋座学）

実際に採蜜体験からミツバチの重要性を考えて頂きました。

●10月5日(土)『採蜜・蜜ろうの精製と利用』



ミツバチだけでなく、ハナバチなどポリネーター（花粉媒介者）にも注力して活動して行きたいと考えています。

●1月25日(土) プラチナ式巣箱づくり



2024年度卒業生の皆様

実際に重箱式巣箱を製作しました。

まとめ

表1. 図表 参加者人数（中間報告）

6/20 (夏仕事)	6/30 (春の採蜜)	10/5 (採蜜) 採蜜と蜜ろう の精製	1/25 巣箱づくり
4人	15人	10人	6人

みつばちを守る活動に賛同してくれた方に“みつばちの伝道師を育成”にこだわりました。

毎週1回の現地作業は1月末現在で、延べ39名の実習を行い現在も継続中です。

鳴子中央公園樹林地での子育てファミリーとの里山づくり

鳴子きずなの会 木村 浩二

はじめに

鳴子中央公園の樹林地の里山づくりは5年程前に始まった。緑区の大高緑地で伐採した竹を材料にして落ち葉プールを作って近隣親子の遊び場にした。さらに翌年には植生調査を行い樹林地の状況を明らかにして課題を明確にした。

また自然観察会や落ち葉プールイベント、森の音楽会などを開催して森の楽しさを伝えながら地域住民に親しまれる森にしていった。

また2年前から二次天然林の里山維持のため、森の木の主力になりつつあった常緑低木の伐採や枝落としを行い、森の中に陽が当たり明るくなると同時に見通しがよくなり、親子や子供グループなどの森歩きが一気に増えた。

また枝が短くなったので子供たちの鬼ごっこやかくれんぼなどの遊びの拠点になり、それがさらに枝の伸長を妨げる循環が生まれた。

活動内容

当初、住民が樹種や花、果実などの特徴を覚えやすくするために樹種札代わりの二次元コード版の開発と設置を目指したが耐久性のある二次元コード版の開発が上手くいかず断念した。

I. 11月10日(日)「鳴子で楽しむ 鳴子を楽しむ 第1弾」(参加者150名)

まず森の収穫祭として梅本洋子講師がどんぐりの実生を通じて森の生物多様性が保たれていること、どんぐりなどの木の実やキノコの写真などで樹林地が地域の人の生活と深くかかわっていたことを説明した(参加者40名)。

その後落ち葉かき、落ち葉プール遊びをした後、落ち葉プールを掘っていきカブトムシの幼虫を見せ、飼育経験のある参加者にプレゼント。さらに底の方では4年前の落ち葉が堆肥となっていて、公園に咲く花などの土づくりに使われていることを説明すると驚きの声が上がった(参

加者30名)。

次のウォークラリーコーナーでは、名古屋市立大学の医学部などの学生が作成した樹林地イラストマップを頼りに鳴子関連クイズをグループで歩きながら相談する機会を作った。クイズではため池である鳴子池の成立過程や60年前の樹林地の木の種類などの設問に参加者は相談しあい、鳴子の森などの歴史に新しい関心を持った。また同時に森のいろいろなところを探し歩くことで森の魅力を再発見しいろいろな世代の交流と健康づくりに役立つ森の理解を進めた(参加者120名)。

II. 12月8日(日)「鳴子で楽しむ 鳴子を楽しむ 第2弾」(参加者約50名)

落ち葉プールでは落ち葉をかき集めて実生を助け、落ち葉プール遊びをした後にカブトムシクイズ。「今どういう状態か?」「どのあたりにいるか?」を実際に掘ってみて解答。そして見つかった幼虫を参加者にプレゼント。

次は樹林地での恒例イベントになって来た森の音楽祭。今年は地域住民がキーボードとオカリナで日本のなつかしの曲を演奏。その後中国の楽器二胡のソロ演奏とフォルクローレ演奏。



落ち葉プール遊び



森の音楽祭

まとめ

地域の人が森に親しみ楽しむ試みは4年間の種々のイベント通じて相当進んだ。しかし地域の資源環境を自ら調べて関わる人を増やすところまでは行けなかったことは今後の課題である。

学校のビオトープ、緑地帯で行う生物多様性に関する調査・体験・学習活動

名古屋経済大学市邨高等学校 生物ゼミ 石川 ももか・岡田 夢空・小川 柚菜・安田 龍青・佐藤 豊

はじめに

本校は、名古屋市千種区にある都市の学校である。2023年度より、ユネスコスクール加盟校（図1）となり、準備段階からSDGs 15「陸の豊かさを守ろう」の取り組みを継続的に行ってきた。2022年度は、校内の施設の移転によるビオトープの一部縮小があったものの他は堅持され、科学研究部や市邨ゼミ（生物探究）、生物選択の生徒の主体的な学習活動の場となっている。



図1. 加盟用ロゴ

学校全体・教員の取り組み

【市邨ゼミ】SDGsの目標に沿ったテーマのゼミが31種類あり、週2回行われている。生物のゼミは4つあり（推しの生きもの・海・園芸・花）、理科教員が担当している。受講生徒（高校2年生と3年生）の総数は、152名である。①先生の探究するテーマをともに行う。又は②自身でテーマを設定し探究する。準備→調査→発表準備→発表は、イベントの内容に応じて行っている。例として、「推しの生きもの」を探究しよう！では、なごや生物多様性保全活動協議会で培った活動の積み重ねが土台となっている。内容は、本校ビオトープの説明・千種公園探索・東山動植物園見学と自分で決定したテーマの探究を行うことである。

生徒の取り組み 体験・調査

校内の落ち葉を集めて堆肥化し、バイオマスの利用を学ぶ（図2）とともに、クモの調査・発表を行った（図3）。学内の生きものの調査は、2013年から昆虫、樹木、野鳥などで継続的に行っている。



図2. 落ち葉の堆肥化



図3. クモ調査の発表

生徒の取り組み 発表準備・発表

【学内での発表準備】ブース発表では、押し鳥の羽を試験管に入れたストラップ（図4）を参加者と一緒に作成した。学内で教具の準備を行った（図5）。ブースで子どもたちを楽しませる理科教具の開発は、2003年より行っている。



図4. 押し鳥の羽試験管



図5. 教具準備

【学内での発表】ゼミの中でテーマ毎に発表を行った（図6）。2025年2月12日と13日の市邨Exhibition dayは、学校を開放して行う。

【学外での発表】なごや生物多様性センターユースまつり・授業改革フェスティバル・愛知サマーセミナー・理科フェス東京理科大学・名古屋市科学館イベント・名古屋青少年交流プラザまつり・市邨文化部合同発表会などで行った（図7）。



図6. ゼミ発表



図7. ブース発表

まとめ

これまでの少数の科学研究部員から始まった生物多様性の活動が、生物ゼミに波及し受講者が増加した。生物に関心を持っている生徒の活躍の場となっている。例えば、スズメの減少を調査した生徒は、校内にいる野鳥をテーマとし調査・発表した。これまでの活動を維持し、2025年度は、「観賞魚用水槽で海草の育成を行う」など新しい学びに挑戦したい。

東海中学・高等学校生物部活動報告

東海高等学校 生物部 部長 多田 己一郎

はじめに

東海中学・高等学校生物部では、中高合わせて約60名の部員が在籍し、興味を持った種類毎に虫、魚、両生・爬虫類の3班に分かれて活動を行う。

具体的には、野外での観察、採集、飼育、標本作成であり、部員が各々で採集した生物の一部は飼育、標本作成の対象とし、毎年9月開催の本校文化祭や、なごや生物多様性センター主催の同センター祭りにて展示を行っている。

今年度頂いた助成金を元に行った活動事業と、そこから見えた課題についてここに報告する。

ネイチャーアクア・テラリウム事業

昨今、生物多様性の保全が喫緊の課題となっている。生物部で行う野外調査や生物室での飼育、文化祭での展示、啓発活動などを活かして、自然に対し寄与できる事は無いか模索していた。そこで、「採集した個体の生育環境を水槽内で再現すれば、自然に近い生態が観察出来るのではないか」と考えた。まずは第一目標「長期飼育」を行い、得られたノウハウを第二、第三の目標である繁殖そして保全へと役立てていく。

●ヤマトイワナ水槽

令和6年5月5日に木曽川水系上流にて採集した2個体を迎え入れた。ヤマトイワナは生息数が減少しているため、個体数を限定して採集を実施した。本種の飼育においては、水流発生装置、冷却器、外部濾過装置3台を用いるなど、生息する渓流域の環境を可能な限り再現した。

当初2個体の飼育であったが、片方の個体は採集当時眼球が負傷しておりそれに伴う衰弱もあり、現在では1個体のみの飼育となっている。なお当個体は飼育8ヶ月目で体調も安定している。

●カエル水槽

今年度より活動を開始した両生・爬虫類班もネイチャーテラリウム事業に取り組んでいる。初年度はヌマガエル1匹、ニホンアカガエル、タ

ゴガエル各1匹の2水槽を作成した。



ヤマトイワナの飼育水槽

課題

- ①ヤマトイワナ等の溪流魚の飼育は、文献やインターネットの情報も薄く、飼育経験者も少ない。
→専門機関からの助言を受ける必要がある。
- ②生育環境を水槽内に再現することをコンセプトにしているが、具体的にどこまでの範囲までなら再現可能なのか。
→今年度魚班では、時間的、技術的な制約からネイチャーアクアリウム事業として再現できた水槽はヤマトイワナ水槽に留まっている。
来年度以降、中流、下流域や海水水槽の作成を行う上で、植物と動物との共生関係や藻場、ゴロタ場等の場所による変化にも注目して再現を行う方針である。

まとめ

今年度は今まで触れることのできなかった生物をより自然に近い状態で飼育、観察することができた。同時に、飼育についての情報が少ない種の長期飼育やその先の繁殖、保全においては生徒だけの力での実現が難しいことも実感した。よって来年度他学校との交流、専門機関に協力を仰ぐなど、今まで自分たちだけの力では辿り着けなかった生物の振る舞いが観察できるよう最大限に努力する。

部活動としての利点を活かした事業を展開し、今後も日本の自然環境保全に貢献していく。

相生山緑地自然観察会

団体の目的・主な活動内容

■目的

自然観察を通して、自然に親しみ、自然のしくみを学び、自然保護・保全の大切さを伝え守ることを目的とする。

■活動

- ・観察会
- ・調査・保全・保護活動
- ・ガイドブック・冊子などの企画・執筆
- ・なごや生物多様性センター、天白区役所他 パートナースhip事業
- ・他団体との情報交換など



ヒメボタル (オス)

令和6年度の活動について

■観察会：四季折々の植物・昆虫・鳥などをテーマに実施

5/14、7/9、9/10、11/12、内部研修及び観察会

5/11 (土) ヒメボタルを観察しよう

5/18 (土) トンボの赤ちゃん「ヤゴ」をさがそう

5/30 (木) 相生山緑地に親しむ

9/29 (日) なごや生きもの一斉調査2024～アメリカザリガニとエビ・カニ類編～

11/9 (土) なごや生物多様性センターまつり

主催：天白生涯学習センター

連携：天白・もりのフォーラム

主催：天白生涯学習センター

主催：なごビオ

主催/連携：天白・もりのフォーラム

活動団体の紹介

主な活動場所 相生山緑地オアシスの森 (名古屋市天白区)

相生山緑地自然観察会

携帯電話：080-9110-3330 E-mail：kimiko.k@chorus.ocn.ne.jp

■例会の予定：・定例観察…… 5月ヒメボタル、5月生きものをテーマに観察会実施

・偶数月……内部研修及び観察会

・その他……随時、関係機関などの講座及び催事などに参画予定

「あいちの海」グリーンマップ

団体の目的・主な活動内容

目の前にある三河湾と伊勢湾の海で見られる素晴らしい自然を、名古屋の人や地元の人に知ってもらうこと。

令和6年度の活動について

ここ数年続く猛暑で、いろいろな生き物が姿を消してしまいました。しかし、気候が変わった影響で、今までいなかった生き物が見られるようになるということもあるでしょう。諦めないで新たな挑戦を続けたいと思います。

① 5月9日 (木) 南知多町羽豆岬でのウミウシ調査開始

② 5月24日 (金) 南知多町立みさき小学校の磯の観察会の御手伝い

③ 5月25日 (土) 「ヨットで佐久島へ！」おそらくこれで最後の「ヨットで佐久島へ！」島では、佐久島の一斉ごみ拾いに参加。そのあとは、弁天島でアメフラシの観察。

④ 5月26日 (日) 南知多町長谷崎・聖崎でウミウシ調査

⑤ 6月2日 (日) 午前：鈴木香里武先生と南知多の港で岸壁幼魚採集

⑥ 6月2日 (日) 午後：鈴木香里武先生と南知多のチリメンモンスター探し

⑦ 6月5日 (水) 南知多町大井漁港内で、クサフグの産卵観察会

⑧ 7月15日 (月・祝) ウミホタルとアカテガニ放仔観察

⑨ 7月23日 (火) 佐久島弁天島でウミウシ調査

⑩ 10月6日 (日) 愛知県主催三河湾大感謝祭に「チリメンモンスターを探せ！」で参加。

⑪ 11月16・17日 (土・日) 佐久島弁天島の夜間調査と外来種の調査



5月25日ヨットで佐久島へ！



6月2日岸壁幼魚採集



鈴木香里武先生といっしょ

活動団体の紹介

主な活動場所 三河湾 南知多町・佐久島・名古屋市

「あいちの海」グリーンマップ

TEL/FAX：(052)841-6048 E-mail：a-ohya@sc.starcat.ne.jp ウェブサイト：http://www1.m1.mediakat.ne.jp/aichisea/

■例会の予定：不定期 (ウェブサイトを確認下さい)

雨池ホタルの会

団体の目的・主な活動内容

名古屋市守山区御膳洞（ごぜんぼら）にある名古屋市立大森北小学校と道路を挟んだ隣に、ため池と公園が一緒になった名古屋市内で1,000番目に整備された「雨池（あまいけ）公園」があります。1998年5月末、会員の1人が散歩中に偶然ホタルを見つけ、その後、雨池周辺のホタル生息地の保全に立ち上がりました。

守山区役所での「守山自然ふれあいスクール」検討部会にも参加して、多くの人に雨池公園の自然の素晴らしさを理解してもらい、一緒に守ってもらおうと思っています。その他、桜並木やマメナシの保全活動、公園周辺のゴミ拾い、雨池の浮遊ゴミの除去、アシ刈り、落葉掃き、花壇作りなど、地域の豊かな自然環境が育まれるように活動しています。



夏だ！元気に遊ぼう会（8/24）

令和6年度の活動について

- ・毎月第2及び第4土曜日の雨池公園周辺の清掃活動、「春の小川」の雑草除去と花壇の手入れを行いました。さらに秋から冬にかけてはヒメボタル生息地の雑草や木の枝を刈り取り、幼虫の生育を促しました。
- ・大森北小学校の子ども達が描いてくれたポスターを周回路沿いに掲示しました。
- ・7月に名古屋市の許可を得て、花壇の水やり用の簡易井戸掘りをしました。2mほどで冷水が湧きました。
- ・3月2日に学区子ども会連合会や大森北小学校PTAと共催の「もちつき大会」を5年ぶりに開催し、約200名の参加の大盛況で、子ども達から「来年もやりたい」との声も上がりました。
- ・5月25日に「ヒメボタル観察会」を90名の参加で行いました。午前中の運動会の演目も軽めになって、子ども達も無理なく参加できたみたいでした。
- ・8月24日に50名の参加で、「夏だ！元気にあそぼう会」を行い、魚釣りと5年ぶりのスイカ割を楽しみました。暑さ対策が必須で、開催時期も含めて検討が必要です。

活動団体の紹介

主な活動場所 名古屋市立大森北小学校の学校隣接公園である雨池公園周辺

雨池ホタルの会

TEL：(090)9924-9964 E-mail：tymmoka@gmail.com

■例会の予定：毎月第2及び第4土曜日、午前10時から

大高緑地湿地の会

団体の目的・主な活動内容

大高緑地で昭和の終わりのころから毎月1回、鳥や植物等の観察会を行っている団体の有志が、花木園が猛暑・少雨の夏でも水が湧き出していた事と、水がしみ出しているところに東海地方固有の植物トウカイコモウセンゴケやシラタマホシクサが生えていた事で、この水を利用して消滅しつつある湿地を復元し、そこに生息する植物や昆虫を増やせないかと考えたのが活動のきっかけです。

活動は2000年頃からで、まず初めに大高緑地を管理している愛知県に、湿地復元活動の趣旨説明や許可を得るための話し合いをしました。2002年に県から許可が下り、2003年から活動に入りました。

令和6年度の活動について

活動テーマの「東海の湿地植物と生き物たくさん」を実現するために年間活動内容（右表）を決めて、毎月第二日曜日9時から11時30分で、湿地の植物に十分な日光が当たるようにするための草刈り・落ち葉掻きをメインに行っています。また、湿地性の植物は他の植物と違って栄養状態が良いと育たないため、刈った草などは全て別の置き場に運んでいます。

また、名古屋市が主催する環境デーなごやや愛知県の主催する大高緑地花梅まつりで、一般の参加者対象に湿地保全活動の体験や湿地の紹介を行っています。



【主な活動内容】

1月	コモウセンゴケの丘の落ち葉掻きと刈り込み
2月	コモウセンゴケの丘の落ち葉掻きと刈り込み
3月	湿地上部・誘導路の草刈り
4月	冬鳥の餌場の草刈り
5月	シラタマホシクサ自生地の草刈り
6月	中央湿地の草刈り
7月	たまり池・導水路周囲の草刈り
8月	池のアシ刈り
9月	里山植物群落の草刈り
10月	コモウセンゴケの丘の草刈り
11月	シラタマホシクサ自生地の草刈りと種まき
12月	中央池の泥上げ

活動団体の紹介

主な活動場所 大高緑地内花木園

大高緑地湿地の会（代表：谷 幹雄）

TEL：(052)622-7521 E-mail：mi-tani@wh.commufa.jp

■参加者：毎回10人前後、参加資格：なし、参加費：無料

尾張サンショウウオ研究会

団体の目的・主な活動内容

名古屋市内のオワリサンショウウオの水辺環境の整備と保全。この地方のオワリサンショウウオの保全について調査と協力体制をつくる。また情報の共有をする。オワリサンショウウオ以外にも、ニホンアカガエルやアズマヒキガエルの保全にも取り組んでいる。

令和6年度の活動について

昨年度同様生物多様性センター内のなごびオ両生類部会と共に今まで行ってきた産卵地の整備や一斉調査の活動を行なった。

また、昨年に続き危機的な産卵地の個体群に関しては、幼生を一時的になごび多様性センター内の施設にて保護し、上陸直前で元の場所へ戻す活動を行った。その他、危機的な状況にあるアズマヒキガエルやニホンアカガエルの産卵状況の確認と、ナゴヤダルマガエルの調査も行った。

活動人数約9人



活動団体の紹介 主な活動場所 名古屋市内全域とその周辺

尾張サンショウウオ研究会

TEL/FAX: (052) 781-2595 (瀧川 正子)

E-mail: fwie6142@nifty.com (藤谷 武史) takikawa-m@mtg.biglobe.ne.jp (瀧川 正子)

■例会の予定: 不定期

雑木林研究会

団体の目的・主な活動内容

東海地域を中心に雑木林の文化や自然環境についての研究・保全・普及啓蒙活動のため様々な活動に取り組んできました。近年は雑木林研究会で集まる活動は少なくなり、研究会メンバーがそれぞれのフィールド活動に取り組んだり支援したりする機会が多くなっています。

令和6年度の活動について

- 10/29 日進市立梨の木小学校・森の学習の支援 (担当: 真弓浩二) 写真左端
- 11/23 緑区鳴子中央公園の森づくりの支援 (担当: 真弓浩二)
- 11/30 春日井市高森山公園の森づくりの支援 (担当: 真弓浩二)
- 12/06 東海シニア自然大学・高等科講座の講師 (担当: 真弓浩二)
- 12/07 てんぱくプレーパークの会の森づくり活動の支援 (担当: 真弓浩二)
- 12/14 日進里山保全実践講座の講師 (担当: 真弓浩二) 写真中左
- 民芸の散歩道をつくる会 (豊田市平戸橋) の活動支援 (担当: 森由紀夫)
(矢作川河川敷など地域の竹林整備で処分される竹材を活用した「竹のあずまや」やベンチづくりの地域団体の支援) 写真右端
- 藤巻町自治会 (名東区) の里山保全活動の支援 (担当: 藤森幹人) 写真中右
(名古屋市オアシスの森事業と連携して自治会による雑木林保全活動を支援)



活動団体の紹介 主な活動場所 東海地域の雑木林等

雑木林研究会

TEL: 090-7618-5426 (藤森)

E-mail: fuji@taiwa-k.jp (藤森)

滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会

団体の目的・主な活動内容

滝ノ水緑地は、名古屋市緑区にあり、約4.4haの雑木林の中に、小さな池と湿地があります。この地域が市街化される前の原風景を残す貴重な場所で、多種類の樹木や湿地植物、野鳥やトンボも観察することができます。

私たちは、1997年に「滝ノ水緑地公園愛護会」として活動を始めました。2010年からは「滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会」となり、緑のパートナーとして、名古屋市と協定を結びました。2011年には、滝ノ水緑地維持管理計画を作成して、滝ノ水緑地の植生および生態系を維持・再生するための活動をしています。



令和6年度の活動について

〈定例活動〉

- ・湿地：除草、笹刈り、除伐、湿地植物の保護と再生
- ・樹林地：間伐、しがらみ柵づくり、枯れ木の処理
- ・池：池に溜まる落葉などの回収

〈イベント〉

環境デーなごや「身近な自然体験会」

- ・「森で木を伐って樹名板を作ろう」（6/16実施）
- ・学区小学生対象、緑地の自然について座学授業（5/31実施）
- ・「なごや生きもの一斉調査ザリガニ類」（10/5実施）
- ・学区小学校の3年生と現地観察会（令和7年3月予定）

〈その他〉

- ・維持管理計画に基づき、名古屋市と協働で、専門家から保全状況の確認と活動へのアドバイスをいただいています。
- ・湿地の保全について、有識者から作業の実践を学んでいます。

活動団体の紹介 主な活動場所 滝ノ水緑地（緑区）

滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会

E-mail : a0lune0soleil@mb.ccnw.ne.jp

■例会の予定：毎月第3日曜日 9：00～12：00（11月～3月は、10：00～12：00）（変更することがあります）

地球ハグ倶楽部

団体の目的・主な活動内容

【目的】

全ての生命をはぐくむ自然の中で、親子で遊ぶ。

「ハグ+コミュニケーション=ハグニケーション」という、ハグするようなあたたかなコミュニケーションを伝え広げる。自然体験を通して、まずは一番大切な自分自身、家族、お友達、自然とつながり元気になる。持続可能な社会のために、自分と家族とみんなと自然を大切にできる子供たちを育む。身近なつながりから世界を良くしていくことを目的としています。

【活動の3本柱】

- ・自然の恵みをとって食べる“美味しい”体験
- ・自然の素材で作って遊ぶ“楽しい”体験
- ・自然の神秘を五感で感じる“美しい”体験

【育みたい3つの力】

■自分を信じる力 ■大切な人を愛する力 ■自分と地球をハグできる力

令和6年度の活動について

「BeeHappy ∞ Project」6年目の活動 技術・知識の向上
第9回なごや生物多様性センターまつり



活動団体の紹介 主な活動場所 愛知県中心

地球ハグ倶楽部

連絡はメールにてお願い致します。 E-mail : info@chikyu-hug.club

ウェブサイト : <https://chikyu-hug.club/>

■例会の予定：不定期（ホームページを参照）

中部蜘蛛懇談会

団体の目的・主な活動内容

- 目的：クモ類の採集、観察、調査、研究など
- 創設：1969年
- 会員数：72名
- 会誌「蜘蛛」年1回発行
- 通信誌「まどい」年2回発行
- 総会・研究発表会・懇親会：毎年2月11日
- 観察会（年4回）
- 県外団体の合同観察会（随時）
- 合宿観察会（年1回）



関西クモ研究会との合同観察会
2024年6月1日 三重県亀山市加太駅周辺

令和6年度の活動について

（事業年度：4月～翌年3月）

○主な活動

- ・会誌「蜘蛛」を発行
- ・総会・研究発表会・懇親会（2月11日、名古屋市立大学にて対面形式で実施）
- ・観察会（小幡緑地、大高緑地、岡崎中央総合公園北湿地、平和公園）
- ・関西クモ研究会と合同観察会（三重県 亀山）
- ・夏休み子ども観察会（八事山興正寺にて環境デーなごやとして）
- ・ブース展示：環境デーなごや2024中央行事に出展
- ・なごや生物多様性センターまつりに出展

活動団体の紹介

主な活動場所 小幡緑地、八事山興正寺など

中部蜘蛛懇談会

TEL：(052)872-5853 FAX：(052)872-5853 E-mail：mail@ckumo.sakura.ne.jp

ウェブサイト：http://ckumo.sakura.ne.jp/ 《[中部蜘蛛懇談会]で検索》

○入会：子どもから研究者までどなたでも歓迎

○観察会の参加：会員以外でも参加自由・無料（開催日はウェブサイトに掲載）

東谷山湿地群保全の会

団体の目的・主な活動内容

私たちは名古屋市最高所である東谷山（198m）周辺に残る東海丘陵要素型湧水湿地群の保全活動を行っています。この湿地群は過去より遷移による湿地性生態系の劣化を指摘されてきました。『この地域にしかない独特の生態系を残したい、この素晴らしい体験を未来に繋げたい』という思いで、2006年に県有林事務所と有志が保全活動を実施。2011年には有識者、県環境部、協力団体を中心となり当会が発足し活動がスタートしました。以後、県有林事務所と利活用協定を結び、保全活動と植生調査を継続させて頂いています。

東谷山湿地群は砂礫を含んだ粘土質であり、雨水の浸透を妨げることで貧栄養湿地（湧水湿地）を形成しています。このまま放置しておくと湿地は森林化し、希少な動植物と共に消滅します。

私たちは湿地を圧迫する要素を除去し、健全な東海丘陵型湧水湿地群の保全と動植物の保護を図ります。

- ・湿地内のママガヤや枯れ草を刈り取り、湿地外へ持ち出し富栄養化を防ぐ。
- ・周辺や湿地を覆う樹木を伐採し、集水域の確保と陽の光が差す明るい湿地を維持する。

令和6年度の活動について

- ・湿地保全活動：例会として、東谷山Y湿地保全、N湿地保全を毎月実施。
- ・湿地動植物の記録：湿地性固有植物調査、会報『湿地だより』発行など。
- ・湿地周辺道路ゴミ拾い：投棄によるゴミを拾い、守山環境事業所へ引き渡し。
- ・守山自然ふれあいスクール構成団体（守山区役所地域力推進課）
- ・あいち生物多様性保全活動担い手養成講座、実践講座・湿地編 9/29、10/8 支援（愛知県環境局自然環境課）



活動団体の紹介

主な活動場所 東谷山湿地群（Y湿地、N湿地など）

東谷山湿地群保全の会

E-mail：fuku.moriyama@gmail.com（福田）

■例会の予定：【東谷山Y湿地保全】毎月第一土曜日 9：30～12：00（東谷山散策道入口 9：30集合）

【東谷山N湿地保全】毎月第三水曜日 9：30～12：00（東谷山フルーツパーク第一駐車場 9：30集合）

中志段味の自然を次世代に伝える会

団体の目的・主な活動内容

才井戸流流域は将来『才井戸流湧水自然公園』（仮称）として今の自然をそのまま生かしながら生き物たちに触れられる公園になります。田んぼ跡の湧水ポイントから出る水と全域から染み出す水が、この流域の生き物たちを支えています。澄み切った川には「川モズク」が、河岸段丘の境目には「沢蟹」が生息しています。これらの自然環境保全とそこに生きる生物たちの繁殖を助けてやれるよう、湧き出る水と吹き上がる砂・河岸段丘の境目から染み出る水を大切に生かし、保全を実証しながら次世代へ永続的に継承するのが、私たち「伝える会」の活動です。



令和6年度の活動について

- ・古くから生活してきた近辺住民が、上段から投棄してきた家庭ごみ・畑の耕作資材ごみ、などを回収してきました。
- ・ヒメボタルのため、竹林整備も進めました。
- ・コツコツと継続的にヨシ・クサ、などを刈り、女性中心で片付け作業も進めました。
- ・観察・調査・研究活動に参加・協力してきました。
希少植物・コウモリ・苔・ホタル・ドジョウなど。
- ・大型商業施設と互いの繁栄のために、環境保全のために、協力しながら環境交流を進めてきました。



活動団体の紹介 主な活動場所 才井戸流流域

中志段味の自然を次世代に伝える会

TEL : 080-6968-2327 E-mail : f-jin@yc5.so-net.ne.jp

■例会の予定：定例打合せ会／毎月第3土曜日 15：00～17：00

定例作業／毎月第1土曜日 9：00～11：00

「なごや環境大学」実行委員会

団体の目的・主な活動内容

なごや環境大学は、市民・市民団体、企業、教育機関、行政が協働でつくる、環境学習のネットワークです。「環境首都なごや」そして「持続可能な地球社会」を支える「人づくり・人の輪づくり」を進め、行動する市民、協働する市民として「共に育つ（共育）」ことを目指しています。

令和6年度の活動について

令和6年度は、多様なつながりを活かしつつ、SDGsや生物多様性をテーマとした事業を重点的に取り組んでまいりました。

フィールド体験とワークショップで私たちが目指す社会を一緒に考える「フィールド体験&NPO・企業・行政×あなたのSDGs企画大会！」等、SDGsの輪を広げる講座を実施したほか、グリーンインフラをテーマとして、国の情報や名古屋の取り組み紹介を通して、事業者の方にグリーンインフラに取り組んでもらうためのシンポジウム「なごやのまちとグリーンインフラ」を開催しました。

そのほかにも、森林環境譲与税を活用し、岐阜県美濃市・関市をフィールドとした「山の社会見学」の実施や、愛知学院大学、中部大学と連携した「SDGs 普及啓発教育プログラム」など、人づくり・人の環づくりを意識した事業を実施しました。

〈令和6年度の主な主催事業〉

- ・「企業事例から学ぶ！サーキュラーエコノミー（循環経済）の動向」
- ・「フィールド体験&NPO・企業・行政×あなたのSDGs企画大会！」
- ・「なごやのまちとグリーンインフラ」
- ・「山の社会見学会」
- ・「SDGs 普及啓発教育プログラム」



活動団体の紹介 主な活動場所 まちじゅうがキャンパス

「なごや環境大学」実行委員会

TEL/FAX : (052) 223-1223 E-mail : jimun@n-kd.jp ウェブサイト : <https://www.n-kd.jp>

公益財団法人 名古屋港緑地保全協会

団体の目的・主な活動内容

当協会は、豊かで快適な港湾環境を創出するため、名古屋港の臨港地区内及びその周辺の緑化を推進し、適切な環境保全に努め、名古屋港の発展と親しまれる港づくりに寄与することを目的に、緑化に関する調査や研究、緑化に関する思想の普及啓発、緑にふれあう機会と場を提供する事業などを行っています。

また、名古屋港の臨港緑地のうち15の施設を指定管理者として管理運営しており、維持管理で発生する刈草や剪定枝を原料に堆肥を製造し、臨港緑地の花木の育成に利用するなどの「緑のリサイクル」を実践するとともに、環境に配慮した循環型の緑地管理に努めています。

令和6年度の活動について

- 花の名前当てクイズ
- 木の名前当てクイズ
- 富浜緑地わくわく体験教室
- 緑地見学会
- 園芸講習会「クリスマスの寄せ植えづくり」
- 刈草、剪定枝を原料とした堆肥の製造
- 堆肥の無償配布
- 伐採木無償配布（燃料として）



地域住民との協働 花の植栽



堆肥製造

活動団体の紹介 主な活動場所 名古屋港の臨港緑地

公益財団法人 名古屋港緑地保全協会

TEL : (052) 659-0880 FAX : (052) 659-0628 Email : info@npgpa.jp

ウェブサイト : <http://www.npgpa.jp/> 富浜緑地(愛知県弥富市)では土日祝に木工教室など自然とふれあう体験教室を実施しています。

名古屋昆虫同好会

団体の目的・主な活動内容

この地球には様々な生物が暮らしています。その中で種数の約80%を占める昆虫は、その生活様式をそれぞれの棲息場所の環境に適応させて進化を遂げてきました。様々な昆虫がいることを知ることや、それらの昆虫が多様な生活をしていることを知ることなどは、私たちが自然を理解することの一つの入り口になります。そのような昆虫に興味を持った人々が集まった会が名古屋昆虫同好会です。

戦後間もない1949年に創立され、小学生から社会人、リタイア組みなど、地元名古屋を中心に、全国から300名以上の虫好きが入会しており、東海地方を中心とした全国の虫情報(データ・生態等)が掲載される会誌「佳香蝶」と、会員情報やよもやま虫談義などを掲載する連絡誌「NAPI NEWS」を、それぞれ年4回発行しています。

令和6年度の活動について

- 「佳香蝶」「NAPI NEWS」を、年4回3ヶ月ごとに発行
- 1月第3日曜日 特別講演会: 箕面昆虫館館長・中峰空氏
- 2月~12月: 毎月第2土曜日に月例会を開催
- 4月: ギフチョウ観察懇親会愛知県豊田市
- 6月: 親子で楽しむ昆虫調査会 in トヨタ白川自然学校
- 7月: 夏季採集懇親会 in おんたけ休暇村



ライトトラップ親子採集会



夏採集会開田高原

活動団体の紹介

名古屋昆虫同好会 (会長: 間野 隆裕、事務局: 戸田 尚希)

TEL : 090-3567-0672 E-mail : one.sheep.toda@gmail.com

ウェブサイト : <http://nagoyakondo.com/>

活動場所: 毎月第2土曜 18:30より、中小企業振興会館(通称吹上ホールのある会館) 4階で、卓話や情報交換、名前調べ会などの例会を実施しています。

名古屋産業大学現代ビジネス学部・大学院 環境マネジメント研究科 長谷川研究室

団体の目的・主な活動内容

身近にある自然環境の生物多様性を高めると共に、より生態系サービス（自然からの様々な恵み）が豊かな地域社会を作るための方法を探求しています。自治体、地域団体、保全団体等との連携により、実践的な研究を進めています。

また、エコレク部等の部活・サークル活動とも連携して、生物多様性を楽しく学べる仕組みづくり（生物多様性カードゲームの開発等）を行っています。

令和6年度の活動について

里山や社叢などの伝統的緑地や都市緑地、都市公園を対象に、生物多様性、生態系サービスの実態把握とその評価手法の研究を行っています。

- ・東海地方の社叢、日本庭園、湿地の調査
- ・絶滅危惧植物（東海丘陵要素、ラン科等）、菌従属栄養植物の生育環境調査
- ・尾張旭市内主要緑地の動植物調査
- ・名古屋市内公園緑地の植物相、植生調査及び保全活用状況の調査
- ・瀬戸市内重要生態系の保全活動支援、植物調査



活動団体の紹介

主な活動場所 名古屋市、尾張旭市、瀬戸市、東海地方の重要生態系

名古屋産業大学現代ビジネス学部・大学院環境マネジメント研究科 長谷川研究室

TEL: (0561) 55-5101 (大学代表)

FAX: (0561) 52-0515 (大学代表)

E-mail: y-hasegawa@nagoya-su.ac.jp

名古屋自然観察会

団体の目的・主な活動内容

名古屋自然観察会（正式名は、愛知県自然観察指導員連絡協議会名古屋支部）は、主に名古屋市内在住または在勤している自然観察指導員（（公財）日本自然保護協会による登録認定者）によって1982年に結成されました。現在の会員数は約100名です。主な活動場所は名古屋市内です。本会は、発足以来、身近な自然に親しみ、自然のしくみを理解し、自然を守るための自然観察会やそれに伴う環境保全活動などを実施しております。近年では、これらの活動と並行しながら、名古屋市環境局などと協力しながら、環境教育等の様々な活動を行っています。



令和6年度の活動について

- ①市内11箇所の緑地や公園などでその自然の特色を生かした自然観察会やネイチャ・フィーリングなどの特色ある自然観察会を年間を通して実施しました。また、5月に鶴舞公園でふるさと親子自然観察会を実施しました。
- ②子供の自然体験と健全な発育を促すための“なごや自然教室”を3回実施しました。
- ③名古屋市やその近郊の身近な自然にふれるために、7月になごビオ主催の「サマースクール」を実施しました。また、11月には、なごや生物多様性センター主催の「センターまつり」にブース出展しました。
- ④名古屋市環境局の環境デーなごや実行委員会が主催する環境デー中央行事（9月）にブース出展しました。
- ⑤名古屋市内の幼稚園や保育園、小学校などへ環境サポーターを派遣し、名古屋市環境局のエコキッズ事業に協力しました。
- ⑥会員のスキルアップを目的とした研修会を3回実施しました。
- ⑦愛知県自然観察指導員連絡協議会が主催する様々な事業に参加・協力しました。
- ⑧機関紙「なんじゃもんじゃ通信」を6回発行しました。
- ⑨ホームページなどを通じて情報発信しました。

活動団体の紹介

主な活動場所 市内の緑地や公園

名古屋自然観察会

TEL: (052) 782-2663

FAX: (052) 782-2663

E-mail: takilin@sf.starcat.ne.jp

ウェブサイト: <http://www.nagoyashizen.net/>

■例会の予定: 例会は実施していません（役員会は偶数月の第3日曜日）。

名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち

団体の目的・主な活動内容

ヒメボタルを絆として、温かい心のつながりが広がるのが願いです。
1975年にお堀電車の駅員だった竹内氏が、ヒメボタルの大発生を発見し、その後専門家の指導のもと保護活動をされていました。氏ご逝去後、家族・知人等で受け継ぎ、その輪が縦や横に広がっています。

ホタル発光の時期は、毎晩ホタルの数を数えたり、人々をご案内したりしています。「外堀は空堀で、ヒメボタルは陸生」「都会の真ん中のお城にヒメボタルが自然発生していることは大変貴重であること」等正しい情報発信をするため、ブース出展やステージ発表・お話し会等を行っています。専門家の方のご指導を受けて調査も行います。市と外堀の草刈り等管理方法を相談したり、清掃も行ったりしています。歌や絵本を作る・写真を撮る等、一人一人が自分にできることで活動をしています。



令和6年度の活動について

○本年度は、マスコミ等の取材も少しずつ受けさせていただき、慎重に発信も行いました。

北土木事務所さんと相談しつつ、現地の安全確認で危険と思われる箇所はすぐに対応していただき、安全確保に努めました。

- ・コロナ禍を考慮した発信法として、しおりに代わって腕章とメンバーのスマホに二次元コードをつけて人々のご案内。
- ・コロナ禍以前のように、ホタル発光の時期、毎晩23時頃～2時頃、ホタルの数を数え毎日HPにUP、人々のご案内をしました。
- ・現地へは例年通り4月～6月上旬深夜、メンバーの一部が出かけて、安全確認とホタルのカウントを行い、貴重なデータを残すことができました。
- ・本年度は、4月22日初見・5月14日がピーク・6月2日が最終でした。ピークの頭数は4714頭ほど（年によって多い少ないはあります）。
- ・昨年度は、4月24日初見・5月20日ピーク・6月3日終了。
- ・外堀清掃を行いました。コロナ対策を行いながらたくさんのごみを拾いました。

○今年は気象が異常といえる感じで、梅雨入りも平年より一週間ほど早く、その中でホタルは命をつなぐために一生懸命だと思います。こうして自然を生き抜いてきた一つ一つの命の重みを感じています。小さな輝きから大きな力と優しさもらえている気がします。ありがとうございます！

活動団体の紹介 主な活動場所 名古屋城外堀（外堀通沿）

名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち

TEL/FAX：なし E-mail：meijo_himebotaru_kanbu@googlegroups.com

ウェブサイト：<https://sotobori.amebaownd.com/>

■例会の予定：不定期

名古屋市立大学大学院理学研究科附属 生物多様性研究センター

団体の目的・主な活動内容

名古屋市立大学では、2009年度末に、生物多様性に関して多様な研究を行うとともに、啓発活動を継続的に行う研究センターを設立しました。本研究センターでは、「生物分類」「生物進化」「生物地理」「生態適応」「遺伝子資源の探索」「希少種の保全」など幅広いテーマで、生物多様性の理解と生態系の保全を目指して研究を進めています。また、生物の学名を遺伝子から特定できるシステムを作ろうという国際的取り組み（DNAバーコーディング）に携わり、東海地方の動植物や東南アジアの魚類など、様々な生物の標本とDNAデータを収集するとともに、それらの進化や保全などに関する研究を行なっています。御興味をお持ちの方はどうぞ見学に来てください。

令和6年度の活動について

多くの方々のご協力のもとに、愛知県を中心に貝類・昆虫類・クモ類などの標本収集を行いました。これらの標本からミトコンドリアDNAの塩基配列決定を行い、DNAバーコードライブラリーを作成するとともに、MIG-seq法などを用いた系統解析を行いました。さらに、学外の共同研究者とともに、名古屋市及びその近郊の植物について遺伝的類縁性を解明する研究も実施しました。アウトリーチ活動では、名古屋市立高校や愛知県立高校の生徒・教員を対象に、生物多様性に関する体験実習を実施したほか、DNA解析を通して佐屋高校・明和高校の研究活動をサポートしました。一方、インドネシアとタイの魚類の多様性の解明を目指した国際共同研究にも取り組みました。

活動団体の紹介

名古屋市立大学大学院理学研究科附属生物多様性研究センター

TEL：(052) 872-5851 E-mail：biodiv@nsc.nagoya-cu.ac.jp

ウェブサイト：<http://www.nsc.nagoya-cu.ac.jp/biodiv/>



なごやの森づくりパートナーシップ連絡会

団体の目的・主な活動内容

名古屋の自然を守り、育て、ふれあい、学び、後世に継承することをめざし、加盟団体間の連絡を円滑にし、お互いに協力しあうことにより、各団体の活性化を図る目的で設立されました。

令和6年度の活動について

○令和6年度の加盟団体数：森づくりを楽しむ27団体が加盟

・定例会の開催：偶数月 第2金曜日10：00～ 定例会の開催
奇数月 第2金曜日10：00～ 幹事会の開催

・フィールド訪問の開催

加盟団体の活動日に現地を訪問し、研修会を兼ね課題の共有化を図る目的で、12月20日に「なごや環境大学実行委員会（エコパルなごや）」の現地訪問を実施。また定例会にて各団体の紹介を兼ねた室内フィールド訪問を実施しました。

・スキルアップのため講座へ参加

森づくり活動のために必要な道具の取扱いや安全対策等を改めて学ぶ機会の実践編として、1月26日に戸田川緑地、森を案内する為の自然観察のポイントを学ぶため、2月15日に猪高緑地にて行われたなごや環境大学主催のスキルアップ講座を受講しました。

・なごやの森づくりガイドライン勉強会への参加

名古屋市「なごやの森づくりガイドライン」の改訂作業へ参画、また改定内容を現地にて確認するとともに、森づくりに関わる関係者の知識向上と意識共有を図ることを目的とした名古屋市主催の勉強会へ参加しました。

・その他

名古屋市主催の「森づくり体験会」を5個所の緑地で実施しています。

9月16日環境デーなごや中央行事にブース出展しました。

10月28日なごや生物多様性センターまつりにブース出展しました。

なごびオの活動に関する情報を発信しています。



なごや生物多様性センターまつり出展



森づくり体験会

活動団体の紹介 主な活動場所 名古屋市内の緑地

なごやの森づくりパートナーシップ連絡会

(事務局) TEL：(052)731-8590 FAX：(052)731-0201

ウェブサイト：https://www.nga.or.jp/moridukuri_partnership/

《「なごやの森づくりパートナーシップ連絡会」で検索》

■例会の予定：偶数月 第2金曜日10：00～定例会の開催、奇数月 第2金曜日10：00～幹事会の開催

NPO法人 なごや東山の森づくりの会

団体の目的・主な活動内容

「東山の森」に親しみながら森で学ぶ！森で遊ぶ！森で汗をかく！次世代につなげる森づくり活動をしています。活動は、雑木林手入れ、竹林の整備、湿地再生、畑班、田んぼ班、そば班、子ども森づくり活動、森の案内、クラフト班、森の調査があります。

令和6年度の活動について

定例森づくり活動は東山の森南部（奇数月）平和公園（偶数月）321人（年）、子ども森づくり活動：5月「竹伐り＆ハイキング」、10月「ナイトハイキング」、3月「雑木林で木こり体験」250人（年）。東山の森 水辺・湿地保全再生活動：天白溪「うるおいの森」79人（半年で）、平和公園里山班/第3（日）、東山南部里山班/第4（土）、藤巻班/第2（日）、畑班/第2・4（日）、田んぼ班/第2・4（日）、調査活動班（随時）、東山そば班/第1（土）、クラフト班/第1（土）。

特記：・田んぼ班/4月、田起こしからモミ蒔き苗づくりから田んぼの生き物観察を入れ最後の餅つき大会まで毎年実施しています。

・竹林整備班/くらしの森のスホウチク、トウチク、シホウチク、モウソウチク他整備週活動。

・調査活動班/ハンノキ湿地のウシガエルとアメリカザリガニ駆除。活動日数67日（5～12月）、ザリガニ13,671匹、ウシガエル3,243匹（成体42匹、幼体240匹、幼生2,961匹）。

・平和公園里山班/くらしの森で森づくり、伐木で椎茸栽培も。

・東山南部里山班/いのちの森・うるおいの森づくり 雑木林、湿地の手入れなど。

付録）なお、令和6年3月なごや東山の森は自然共生サイトに認定となりました。会の活動が評価された訳ではありません。

1. 生物多様性の恵み（生態系サービス）の提供の場 2. 希少な動植物の生息の場

3. 市民・企業・行政による協働の保全活動の場



早春 水辺整備活動



晩秋 林床整備活動

活動団体の紹介 主な活動場所 なごや東山の森

NPO法人 なごや東山の森づくりの会

TEL/FAX：(052)781-2595 E-mail：nh_morizukuri@higashiyama-mori.sakura.ne.jp

ウェブサイト：<http://www.higashiyama-mori.sakura.ne.jp/>

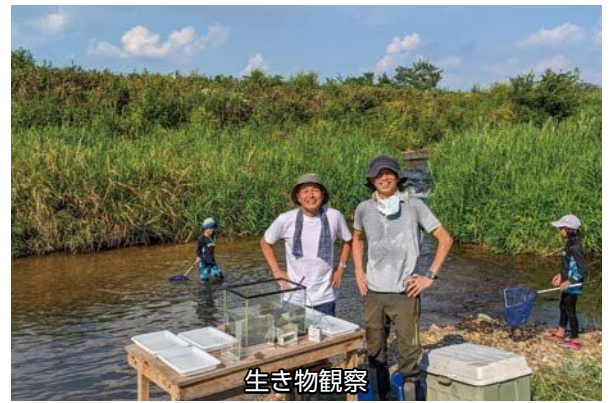
【定例森づくり】参加費：会員/無料・一般/200円 日 時：毎月第1日曜日 9：30～12：30

場 所：奇数月/いのちの森・うるおいの森（東山公園南部）、偶数月/くらしの森（平和公園南部）

NPO 法人 日進野菜塾

団体の目的・主な活動内容

都市農地の遊休地の活用方法を考えることから始まり、生きものとの共生、自然を守る観点から有機農法を選び、日本の伝統文化を学び、命がつながっていく営みを知り、命の大切さを知る、そんな場にしたいと考え、農体験教室、生きもの観察教室を行っています。子供の食育、環境教育、都市住民の農への理解、自然体験の楽しさ・魅力を日々発信続ける場となることを希望しています。又、地域の子育てNPO、介護・障がい者団体等との農を生かした連携も進めています。栽培は、農薬や化成肥料を使いません。



生き物観察

令和6年度の活動について

- ① 農業体験農園（指導付き農園）毎週土曜日（講義と実践）
- ② ダンボール生ゴミコンポスト講座、落ち葉たい肥講座、味噌作り講座
- ③ 田植え、稲刈り、ハーブ教室、ミカン剪定収穫、収穫感謝祭、もみ殻燻炭作成、餅つきなど開催。



もみ殻燻炭作成

活動団体の紹介

主な活動場所 日進市本郷

NPO 法人 日進野菜塾

TEL : 090-5443-1518

FAX : (052) 934-7207

E-mail : info@n-yasaijuku.com

ウェブサイト : <http://n-yasaijuku.com/>

■オンライン定例会：第二日曜日 18:00~19:00

日本ワシタカ研究センター

団体の目的・主な活動内容

愛知県尾張旭市にある日本ワシタカ研究センターは猛禽類の保護を实践するために1982年に設立されました。その後、国内外の専門家や団体、行政機関とも連携しながら、猛禽類に関する基礎研究、希少種の生息状況把握、開発地域での希少種保全対策の提言や実施、伝統的な日本の鷹狩技術も利用した傷病鳥救護活動、国際会議や研究会での成果発表、猛禽類保護に関する講習会の開催などに取り組んでおり、国際自然保護連合（IUCN）にも加盟しています。

令和6年度の活動について

年間を通じて実施した活動

- ・岐阜県、三重県、滋賀県内で観察を継続しているイヌワシ、クマタカ、オオタカ、サシバ、ミサゴの生息地で繁殖状況等を確認。
- ・愛知県内で傷病により保護されたオオタカやハヤブサを行政機関の依頼に応じて収容。回復したオオタカは放鳥。
- ・岐阜県、三重県、福井県、静岡県内での各種工事に連関して実施されている事業者による希少種生息状況調査の結果確認と相談事項への対応。
- ・IUCNの生態系管理委員会によるテーマ別グループ「生態系の持続的な利用と管理」に共同代表として協力。

その他の活動

- 9月21日 モンゴルで開催された国際鷹狩会議で絶滅危惧種となっている猛禽類の保護活動について講演。
- 10月5日 サウジアラビアで開催されたハヤブサと狩猟に関する博覧会で傷病猛禽類保護活動について講演。
- 11月9日 第9回なごや生物多様性センターまつりに出展し、猛禽類の大きさなどについて紹介。
- 11月13~15日 行政機関の野生鳥獣関連部署の担当者を対象とした傷病猛禽類保護に関する講習会を開催。
- 1月4~5日 チュウヒ類の越冬期個体数全国一斉調査に協力。

放鳥したオオタカ



巣材を運ぶミサゴ



サウジアラビアでの講演

活動団体の紹介

主な活動場所 愛知県尾張旭市および中部地方の猛禽類生息地

日本ワシタカ研究センター

TEL : (0561) 54-8066

E-mail : jfc-office@tg.commufa.jp

ウェブサイト : <http://www.jfccenter.org>

花水緑の会

団体の目的・主な活動内容

2002年「花水緑の公園通り」と命名した公園を結ぶ道路を花一杯にするまちづくり運動としてスタートし、公園予定地を開墾して種から育てる花づくりに挑戦する会として発足。緑区内11か所で、「花と緑」をキーワードに活動するまちづくりのグループです。

令和6年度の活動について

各部会に分かれて独自に活動中。

【定期活動】

- ・春の種まき（3月末から4月）マリーゴールドなど。ポット移植（5月）
- ・初夏の花苗植え込み（6月）街路樹植えマス・公園花壇など
- ・秋の種まき（9月）パンジー・ノースポールなど。ポット移植（10月）
- ・秋冬の花苗植え込み（11・12月）

本年は夏の猛暑など異常な天候で例年のような苗の生育ができず、苦勞しています。

【年間を通しての活動】

各部会担当街路樹植えマス・公園花壇などの清掃・除草・水遣り等の維持管理。新海池公園の樹林地の保全・整備。

【イベントなどの参加】

緑区クリーンキャンペーン・緑区区民まつり
なごや生きものの一斉調査2024（大高緑地・新海池公園）
身近な自然体験会（新海池公園）
鳴子中央公園（鳴子きずなの会）でのイベント



セルに種まき



こもれび広場の花壇



鳴子中央公園 落葉プール

活動団体の紹介 主な活動場所 新海池公園・こもれび広場・扇川公園・鳴海赤松東公園・扇川緑道・上ノ山公園
鳴子中央公園・なるばーく・亀が洞街路樹など

花水緑の会

TEL：(052) 625-3878 FAX：(052) 623-8191（緑区役所地域力推進課）

E-mail：a6253871@midori.city.nagoya.lg.jp

■例会の予定：各部会により設定

隼人池を美しくする会

団体の目的・主な活動内容

地域住民に愛される公園にしたいと、活動をスタート。公園や池の清掃や除草などの手入れ、池に流入する雨水や湧水の汚れの除去などを定期的に行っている。

平成21年には、名古屋ため池生物多样性保全協議会と協働で、市民とともに隼人池で池干しを行った。池干しでとれた外来の魚やカメ等を取り除いた。

また令和5年には、隼人池の浚渫工事に伴い、工事期間中の池の生物保護を目的として、なごビオと協働し池干しを実施した。池干しの結果、ニホンウナギ、ドジョウ、マルタニシ、タガイ類などの絶滅危惧種が確認された。

令和6年度の活動について

地域の憩いの場として、隼人池の自然をみんなで守り育てたいと考え、日々取り組んでいる。

①定例活動

公園・池の清掃を定期的に行っている。

②その他活動

防災訓練他、年に数回あり。



隼人池の生きものを観察する子どもたち



芋煮会



池干し

活動団体の紹介

隼人池を美しくする会

TEL：090-4468-0500（代表：加藤 昌平）

ビオトープ・ネットワーク中部

団体の目的・主な活動内容

当団体は、「ビオトープ管理士」を中心とした組織で、東海地区および周辺のビオトープに関心のある方々が参加しています。会員の動機はさまざまですが、将来の世代により良い環境を継承していきたいとの思いは共通です。

特定の活動フィールドは持たず、自然環境の保護・保全・再生・創出に資する講演や講座の実施や、環境団体や企業活動へのアドバイスや支援を依頼に応じて行っています。

近年では、持てる知識や技術をもって、環境教育の指導者としての役割も果たし、教育現場はもとより、企業におけるSDGs推進など、さまざまな方面で活動・提案を行っています。



令和6年度の活動について

昆虫調査…

農業文化園・戸田川緑地（名古屋市）において、なごや環境大学の共有講座として、7～8月に親子による4回の昆虫調査を実施しました。午後には、昆虫標本作製についての実習も行いました。他にもライトトラップ調査などを行い、「なごや西の森づくり」によって創出された“とだがわの森”周辺の昆虫相について調査しました。

外来種駆除啓発活動…

増加している外来種を減らす活動を市民レベルでも実施できるよう、7月25日に、名古屋市名東区の猪高緑地において、なごや生物多様性サマースクール2024「外来種の昆虫を採って駆除しよう」を行いました。

また、10月26日には、名東生涯学習センター（名古屋市）において、なごや環境大学の共有講座として、「外来種は美味しい？」を行いました。これは外来種を食材とすることで、間接的に外来種駆除に貢献しようという試みです。

学校・園庭ビオトープの支援…

（公財）三菱UFJ環境財団による学校ビオトープづくりに協力し、名古屋市内の幼稚園及び保育園での園庭ビオトープづくりの設計・施工のアドバイスを行いました。

活動団体の紹介 主な活動場所 東海地区（依頼があればどこでも）

ビオトープ・ネットワーク中部

E-mail : unendo1091@yahoo.co.jp

ウェブサイト : <https://ja-jp.facebook.com/biotopyubu/>

特定非営利活動法人 藤前干潟を守る会

団体の目的・主な活動内容

藤前干潟の保全ならびに干潟環境の重要性についての啓発をすすめ、さらに広く伊勢・三河湾流域圏の環境再生・持続可能な社会実現をめざす。

令和6年度の活動について

・主催事業

「干潟の学校」

「ガタレンジャー養成講座」

「ガタレンジャーJr.」

「藤前フォーラム」

環境省・名古屋市等との共催事業

・各種団体・学校等からの依頼による体感学習

・環境イベント等への出展

・環境省の委託による「稲永ビジターセンター」「藤前干潟活動センター」の運営等



活動拠点にしている稲永・藤前両センターの休館日が増え、利用計画に若干の混乱がありました。できるだけ工夫して利便性を確保するとともに、現状の問題点の解決に向けて活動を続けていきます。

活動団体の紹介 主な活動場所 藤前干潟周辺

特定非営利活動法人 藤前干潟を守る会

TEL : 080-5157-2002 FAX : なし E-mail : info@fujimae.org

ウェブサイト : <https://www.fujimae.org>

■例会の予定：理事会毎月1回（不定期）・総会年1回

三河淡水生物ネットワーク

団体の目的・主な活動内容

2008年2月に設立し、愛知県を中心とした爬虫両生類、魚類、貝類、水生昆虫類などの淡水生物とそれに関わる鳥類などの生物、ならびに、河川に関わる大学や水族館・博物館、行政などの関係者や研究者（アマチュアを含む）によって構成されたネットワークグループです。「研究者間の情報交換と交流の場の創出」、「水辺生態系保全に向けた、正確なデータの収集と提言」、「市民への啓蒙と情報の発信」、「次世代の研究者育成」を目的に、年4回の会合では専門家による話題提供のほか、情報や資料の交換、標本の同定や各々の関わる事業への相互協力など。フィールドでは調査による水生生物相の把握と同時に、希少生物や外来生物の生息データの収集・蓄積。また、より多くの方に、楽しく気軽に生き物や水辺環境に関心を持って頂けるよう、水族館や博物館への展示協力、観察会やシンポジウムの講師、研究発表、研究会誌や博物館館報への投稿など、広く情報を発信しています。そのほか、図鑑をはじめとする出版物への写真の提供や協力も行っています。



ドジョウ調査

令和6年度の活動について

協議会・水辺の生きもの部会の部会員として、また専門家として、名古屋市内の池干しや水生生物の調査等に関わっています。引き続き、愛知県内において、希少種・外来種の調査も行っています。

活動団体の紹介

主な活動場所 愛知県全域

三河淡水生物ネットワーク

E-mail : fw-life@katch.ne.jp

ウェブサイト : <http://freshwaterlife.g3.xrea.com>

■例会の予定：不定期

名東自然倶楽部

団体の目的・主な活動内容

主に、猪高緑地の保全活動を行っています。その目的の為に活動を7つのグループがそれぞれの分野で行っています。

- ①里山保全グループ…猪高緑地内の竹林管理、植物保護などの保全活動を行っています。
- ②田んぼグループ…復元した棚田で、一年を通した「コメ作り」を体験してもらっています。
- ③炭焼きグループ…猪高緑地で増えすぎている竹を伐採し、竹炭を焼いて、有効利用しています。
- ④自然観察グループ…名東区内で自然観察会を開催し、自然豊かな緑地の魅力を伝える活動をしています。
- ⑤総合学習グループ…主に、近隣の小中学校の総合学習の時間で環境学習に協力しています。
- ⑥竹クラフトグループ…猪高の竹で竹トンボ等の竹玩具や道具を作って有効利用しています。
- ⑦調査グループ…緑地の保全の為に、生物、地形、水質の調査や保護活動を行っています。

グループ単独のみでなく、各グループが連携して、全体活動やイベントの運営を行っています。

令和6年度の活動について

活動の一覧は右記 Web ページを参照願います。 <http://sizen.ciao.jp/schedule/2024record250331.pdf>



活動団体の紹介

主な活動場所 猪高緑地（名東区）

名東自然倶楽部

E-mail : k-takagi@zd6.so-net.ne.jp

ウェブサイト : <http://sizen.ciao.jp/>

■例会の予定：全体活動日 毎月第1土曜日 9:00~12:00、各グループの活動日はホームページを参照願います。



谷地田で田植え

もりづくり会議

団体の目的・主な活動内容

わたしたちは、身近な森である鎮守の森をよりよく保全するため、またその方法を検討してくために、千種区の城山八幡宮を主なフィールドとして活動をしています。小規模な会ですが、みんなで案を出し、様々な企画をわきあいあいと行っています。もりの保全活動を通じてつながる、人の輪づくりも大切にしています。お気軽に活動を見に来てください。

令和6年度の活動について

本年度に限らず、今までの活動について紹介します。

月1回、定例会議と定例活動を行っています。定例活動の主な内容は、基礎的な活動として、清掃、シュロ・ササ等の除伐、枯れ枝払い、樹名板の製作と設置等を行い、季節的な活動として、アベマキ、アズキナシ、カマツカ等の苗木作り、希少種の観察会、クラフト作成などを行っています。年末の忘年会では、メンバー自作のゲームやプレゼント交換などを楽しみながら一年の活動を振り返ります。これまでに、なごや生きもの一斉調査のハエトリグモ編（2023年）、陸貝編（2022年）、テントウムシ編（2021年）、ひつつき虫編（2019年）、アリ編（2018年）、淡水貝編（2017年）、カマキリ編（2015年）や陸貝編（2012年）にも参加してきました。

2019年からは、城山八幡宮をはじめ、城山・覚王山地区に残る鎮守の森や斜面林の植生調査を行い、在来種や希少種の保全活動に力を入れています。2022年には茶屋ヶ坂公園の希少種が残るエリアの保全活動を行い、経過観察をしています。



活動団体の紹介

主な活動場所 城山八幡宮 ほかに城山・覚王山地区内の樹林地

もりづくり会議

E-mail: morikaigi66@gmail.com

■例会の予定：月1回、定例会議と定例活動

名城大学野生動物生態研究会

団体の目的・主な活動内容

名城大学農学部生物環境科学科・環境動物学研究室の附属サークルです。水生生物部門、鳥部門、哺乳類部門、昆虫部門の4グループに分かれて活動しています。多様なフィールドワークを通じて、卒業研究などで必要になるデータの取り方、扱い方を楽しく学ぶことができます。なごビオをはじめとする環境保全団体と協力しながら活動しています。

令和6年度の活動について

水生生物部門：カワバタモロコの域外保全、河川・ため池調査（植田川月例調査など）

鳥部門：名古屋市内での探鳥会、観察記録の作成

哺乳類部門：守山リス研究会の定期調査への参加、仮剥製作成

昆虫部門：名古屋市内での探虫会、標本作成、なごや生物多様性センタービオトープの昆虫調査



水生生物部門



鳥部門



哺乳類部門



昆虫部門

活動団体の紹介

主な活動場所 名古屋市周辺

名城大学野生動物生態研究会

Xアカウント: @yamonken_abms

■定例会：名城大学N324で月末の火曜日 12:30~13:00

矢田・庄内川をきれいにする会

団体の目的・主な活動内容

きれいにする会は昭和49年12月27日に結成（会則は翌年5月制定）されました。当時の日本は高度成長期の真っただ中にあり、水も大気も汚れるのが当たり前の時代でした。その時、きれいにする会は「庄内川水系を汚すすべての汚染源に対し、きれいで快適な生活環境をとり戻し、次代へ引きつぐ」ことを目的として掲げ、活動を開始しました。

令和6年度の活動について

- ・「第21回身近な水環境の全国一斉調査」の水質調査に参加（6月）
- ・才井戸流れ水質調査（7月）
- ・矢田川・魚道調査（7月）
- ・矢田小学校での学習支援（7月、10月）
- ・環境デーなごや2024に出展（9月）
- ・名城大学附属高等学校との「庄内川河口・二枚貝調査」（10月）
- ・「第50回庄内川まつり 魚釣り大会」（11月）



活動団体の紹介

矢田・庄内川をきれいにする会

TEL：(052)794-3876 FAX：(052)796-2344 E-mail：yadashounai@gmail.com

■例会の予定：4月総会、以降不定期に役員会開催

山崎川グリーンマップ

団体の目的・主な活動内容

都市河川である山崎川は、まわりの都市化と開発のため、戦後80年の間に大きく環境が変わりました。特に西暦2000年代に入ると、人が放流した外来種のために、本来の生態系が崩れ始めました。山崎川グリーンマップは2008年より、ミシシippiaカミミガメやカダヤシなどの外来種の防除を続けています。

近年の夏の猛暑と頻回の護岸工事、2026年に開催予定のアジア大会に向けての周辺の工事は、山崎川の環境に大きな影響を与えていると思われます。しばらく注意深く様子を見ていく必要があります。

令和6年度の活動について

- ① 5月3日（金・祝）～11日（土）夜間
瑞穂公園周辺のヒメボタルの生息調査
- ② 5月18日（土）山崎川の生きもの観察会
- ③ 6月18日（火）汐路小学校4年生のための環境教育出前授業
- ④ 7月20日（土）夏休み山崎川生きもの観察会
- ⑤ 9月29日（日）なごや生きもの一斉調査に参加
- ⑥ 10月12日（土）なごや環境大学共育講座
山崎川と周辺の野鳥観察会
- ⑦ 11月7日（木）瑞穂生涯学習センター主催の講座担当（歴史）
- ⑧ 11月14日（木）瑞穂生涯学習センター主催の講座担当（生き物）



6月18日 瑞穂区汐路小学校での環境授業



7月20日 夏休み山崎川生きもの観察会

活動団体の紹介

主な活動場所 名古屋市内瑞穂区の山崎川

山崎川グリーンマップ

TEL/FAX：(052)841-6048 E-mail：a-ohya@sc.starcats.ne.jp

ウェブサイト：<http://www1.m1.mediacat.ne.jp/a-ohya/>

■例会の予定：不定期（ウェブサイトを確認下さい）



「なごや市民生きもの調査員」募集中！

なごや生物多様性保全活動協議会や会員団体が行う生物調査や講習会、イベントなどの情報をメールでお届けします。
どなたでも登録いただけます。詳しくは協議会ウェブサイトまで。



令和6年度 なごや生物多様性保全活動協議会 活動報告書

発行年月 令和7年4月

発行 なごや生物多様性保全活動協議会

(事務局：名古屋市環境局なごや生物多様性センター内)

〒468-0066

愛知県名古屋市天白区元八事五丁目230番地

電話 052-831-8104 FAX 052-839-1695

ウェブサイト <https://www.bdnagoya.jp/>

※本書掲載内容の無断転載は固くお断りします。